

鹿児島県埋蔵文化財調査報告書 (37)

**国分・隼人テクノポリス建設地区  
埋蔵文化財分布調査報告書**

— 昭和 60 年度 —

1986年3月

鹿児島県教育委員会

---

## 序 文

始良地区の埋蔵文化財については、昭和36年度に全県的な遺跡分布調査の一環として、遺跡分布調査を行ったところです。

しかし、その後、新しく発見された遺跡も多く、さらに「国分隼人テクノポリス建設地区」構想の発表もあって、遺跡等のより詳細な分布状況の把握が必要となってきました。

鹿児島県教育委員会では、こうした事情を考慮して、昭和59年度から3か年計画でテクノポリス建設地区の埋蔵文化財分布調査を開始し、本年度は始良東部の5町（吉松町・栗野町・牧園町・横川町・溝辺町）について実施しました。

この地区は、古くは大隅国から日向国、薩摩国などへ至る交通の要衝であり、各地からさまざまな文化の流入があった地区として注目されています。本書が、この地域の文化財保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査に御協力をいただいた関係町教育委員会並びに関係者の皆さんに感謝いたします。

昭和61年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 山 田 克 穂

## 例 言

- 1, 本報告書は, 昭和60年度に実施した国分・隼人テクノポリス建設地区埋蔵文化財分布調査の報告書である。
- 2, 調査の組織は経過のなかで記した。
- 3, 本書の執筆は次の通りで, 編集は吉永・宮田が分担して行った。

第1章, 第2章3～5節	吉永
第2章1・2節	宮田
- 4, 遺物の実測・写真等は執筆者が分担して行った。
- 5, 本書に用いた遺物番号は, 通し番号を付した。  
挿図・図版の番号は一致する。
- 6, 別図市町村別遺跡分布地図には, 昭和59年度に作成した市町村別遺跡分布地図に加筆して示している。したがって周知の遺跡については「市町村別遺跡地名表」を参照されたい。
- 7, 栗野町管内の遺跡については, 町総務課長米満重満氏から多くの教示を受けた。

## 目 次

序 文

例 言

第1章 調査の経過	7
第1節 調査に至るまでの経過	7
第2節 調査の組織	7
第3節 調査の経過	8
第2章 各町管内の分布調査	9
第1節 吉松町管内の分布調査	9
第2節 栗野町管内の分布調査	13
第3節 牧園町管内の分布調査	27
第4節 横川町管内の分布調査	33
第5節 溝辺町管内の分布調査	37

## 表 目 次

第1表 吉松町管内の遺跡一覧	11
第2表 栗野町管内の遺跡一覧	21
第3表 牧園町管内の遺跡一覧	31
第4表 横川町管内の遺跡一覧	36
第5表 溝辺町管内の遺跡一覧	38

## 挿 図 目 次

第1図	吉松町管内遺跡の採集遺物(1).....	12
第2図	〃 (2).....	13
第3図	栗野町管内遺跡の採集遺物(1).....	25
第4図	〃 (2).....	26
第5図	牧園町管内遺跡の採集遺物(1).....	32
第6図	〃 (2).....	33
第7図	横川町管内遺跡の採集遺物.....	36

## 図 版 目 次

図版1	上 吉松町管内の遺跡遠景（吉松盆地）.....	39
	下 〃 （永山地区）	
図版2	吉松町管内遺跡の採集遺物.....	40
図版3	上 栗野町の遺跡遠景（木場地区）.....	41
	下 〃 （地方地区）	
図版4	上 〃 （田尾原・稲葉崎地区）.....	42
	下 栗野町管内遺跡の採集遺物(1)	
図版5	〃 (2).....	43
図版6	上 〃 (3).....	44
	下 牧園町管内の遺跡遠景（稼原地区）	
図版7	牧園町管内遺跡の採集遺物(1).....	45
図版8	上 〃 (2).....	46
	下 横川町管内の遺跡遠景（椀遺跡付近）	
図版9	上 〃 （黒葛原地区）.....	47
	下 横川町管内遺跡の採集遺物	

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

昭和57年3月に「通商産業政策のあり方」に関する産業構造審議会の答申が行われ、昭和58年7月に施行された「テクノポリス法（高度技術工業集積地開発促進法）」により、本県では鹿児島市を母都市とし、国分・隼人地区を中心とした2市12町が指定地区となった。

テクノポリス建設対象地区となった始良地区では、昭和36年度に「鹿児島県遺跡分布調査」の一環として分布調査が実施されているが、その後も多くの遺跡が各種開発事業に伴う分布調査で発見され、九州縦貫自動車道建設の際事前に発掘調査された遺跡も少なくない。

そこで、県教育委員会ではテクノポリス建設構想の事業推進と文化財保護との調和を図るため、事前に2市12町の全域を対象とした埋蔵文化財分布調査を昭和59年度から3ヶ年計画で実施することとなった。

調査にあたっては、文化庁全国遺跡分布調査要項（庁保記94号昭和46年4月22日）に準拠して、埋蔵文化財を中心に悉皆調査を基本とした分布調査を実施した。

本年度は、吉松町・栗野町・牧園町・横川町・溝辺町の5町を対象地区とし、昭和60年11月5日から昭和60年12月27日までの8週間実施し、新しい遺跡の発見に努めた。

## 第2節 調査の組織

調査主体者	鹿児島県教育委員会	教育長	山田 克穂
調査責任者	鹿児島県教育委員会	文化課長	桑原 一廣
	〃	課長補佐	坂口 肇
	〃	主 幹	中村 文夫
調査企画	〃	主任文化財研究員	向山 勝貞
調査員	〃	文化財研究員	吉永 正史
	〃	主 事	宮田 栄二
調査事務	〃	管理係長	寺園 晃
	〃	主 査	浜松 巖
	〃	主 事	田中 孝子(昭和60年8月まで)
	〃	〃	川畑 由紀子(昭和60年8月から)

### 第3節 調査の経過

調査の経過は、日誌抄により以下略述する。

- 11月5日 分布調査の開始。プレハブの設置及び諸道具の搬入。  
吉松町管内の分布調査開始。吉松町鶴丸地区の調査。
  - 11月6日 吉松町原口・楠辺・三堂・般若寺地区の調査。
  - 11月7日 吉松町中野・四ツ枝・松永地区の調査。
  - 11月8日 吉松町永山地区の調査。
  - 11月11～14日 栗野町管内の分布調査開始。栗野町木場地区の調査。
  - 11月15日 栗野町木場地区の調査。
  - 11月18日 栗野町寺田・田尾原地区の調査。
  - 11月19日 栗野町稲葉崎・田尾原地区の調査。
  - 11月20～21日 栗野町稲葉崎・北方地区の調査。
  - 11月22日 栗野町恒次・北方地区の調査。
  - 11月25～27日 栗野町管内の補充調査。
  - 11月29日 牧園町管内の調査開始。牧園町万膳地区の調査。
  - 12月2～4日 牧園町万膳地区・三体地区の調査。
  - 12月5日 牧園町上中津川・下中津川地区の調査。
  - 12月6日 牧園町高千穂地区の調査。
  - 12月9日 牧園町持松地区の調査。
  - 12月10日 牧園町持松・下中津川地区の調査。
  - 12月11日 牧園町下中津川地区の調査。
  - 12月12日 牧園町下中津川・上中津川地区の調査。
  - 12月16日 横川町管内の分布調査開始。横川町上ノ地区の調査。
  - 12月17～19日 横川町上ノ地区の調査。
  - 12月20日 横川町中ノ・下ノ地区の調査。
  - 12月23日 溝辺町管内の分布調査開始。溝辺町有川・崎森地区の調査。
  - 12月24日 溝辺町有川・竹子地区の調査。
  - 12月25・26日 溝辺町三縄地区の調査。
  - 12月27日 溝辺町竹子地区の調査。分布調査を終了し、諸道具を搬出する。
- 1月6日から収蔵庫において整理作業及び報告書の執筆作業を行う。

## 第2章 各町管内の分布調査

### 第1節 吉松町管内の分布調査

吉松町の分布調査は、昭和60年11月5日から11月8日まで実施した。

吉松町は県北に位置し、西は菱刈町、南は栗野町、北東部は宮崎県えびの市に接している。東側は霧島山系の栗野岳の裾野が広がり、西側は国見山系の丘陵がせまり、その中央を川内川が南流し沖積地が形成されている。

町内の遺跡は沖積地を前面にひかえた丘陵末端に多く、昭和60年の「鹿児島県市町村別遺跡地名表」によると、縄文時代6、弥生時代8、古墳時代の地下式横穴群2、地下式板石積石室群1、土師及び須恵器が散布する遺跡4、城跡3等が知られている。

これらの遺跡のなかで永山古墳群は、昭和48年発掘調査が行われ、壺形土器等の他に剣・鏃・鏡・ガラス玉などの副葬品が検出されている。

今回の分布調査の結果、新たに15の遺跡を確認した。

#### 1 中原遺跡

吉松町般若寺中原にあり、宮崎県えびの市との県境に近い標高約230mの微高地に位置している。近くには瀬久谷川が流れ、周囲は水田に囲まれている。遺物はスクレイパー・黒曜石片・成川式土器・土師器・青磁を採集した。第2図21はチャート製のスクレイパーで、刃部は入念な剝離が行われている。第1図16は青磁片で稜花皿の破片と思われる。

#### 2 井尻遺跡

吉松町船若寺字井尻にあり、山下集落の北側で標高約240mの微高地に位置する。西側は小川が流れ、丘陵から切り離されている。遺物は黒曜石片・異形石器・成川式土器・土師器・青磁を採集した。第2図23は黒曜石製の異形石器で、両側縁に抉りが入り、全体は押圧剝離によって整形されている。第1図17は青磁片である。

#### 3 今園遺跡

吉松町川西字今園にあり、国鉄吉松駅の北約500m、箱崎八幡神社の裏の畑である。国見山系から伸びた丘陵の末端に位置し、標高は約250mの台地である。遺物は縄文式土器・土師器を採集した。第1図1は角筒土器の底部近くであり、貝殻による条痕文の上に貝殻腹縁による押圧文が施されており、底部付近には沈線が引かれている。前平式土器と思われる。

#### 4 諏訪原遺跡

吉松町川西字諏訪原にあり、吉松駅の西、御洗池と諏訪原池の間で、南方神社の西側の人家にはさまれた畑地である。遺物は成川式土器・土師器が散布していた。

#### 5 牛ヶ谷遺跡

吉松町川西字牛ヶ谷にあり、諏訪原池の南約100mの位置にある。標高は約230mで丘陵末端に所在し、周囲は入り組んだ水田となっている。遺物は成川式土器片少量が散布していた。



## 6 城ヶ尾遺跡

吉松町川西字城ヶ尾にあり、吉松中学校の西約700mの宇都川と小山田川に南北をはさまれた、東へ伸びる丘陵の標高約230mの畑である。遺物は縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器を採集した。第1図3は黒褐色を呈する縄文時代の土器で、口縁部近くと思われる。7は小片であるが、内面に条痕が観察される。13は須恵器甕の肩部に近い破片である。外面は格子叩き、内面は同心円叩きが見られ、奈良～平安時代のものと思われる。

## 7 高野路遺跡

吉松町川西字高野路にあり、地震観測所の東約800mの位置である。北に小山田川、南に鯛吾川が流れ、その間にはさまれた小丘陵地である。遺物は縄文式土器・石器・石皿を採集した。第2図22は、たんぱく石製の石器であり、粗い剝離によって整形されている。刃部は使用によると思われる剝離（実測図の失印）が残り、先端部を錐のように利用したと思われる。第1図19は石皿の破片である。

## 8 陣ノ内遺跡

吉松町川西字陣ノ内にあり、松山集落の南側で、西は高野路遺跡に接している。標高約230mで、前面は小山田川が流れている。広い畑の中に成川式土器・土師器が多く散布していた。第1図4・5は高環形土器の脚部及び坏部の破片である。外面は丹ぬりが施されている。5は脚部への接台の状態がよく観察できる資料である。6は口縁部が肥厚したものである。

## 9 越水遺跡

吉松町川西字越水にあり、永山集落と霧島神社の間に位置している。標高は約235mで、遺跡の西側は鯛吾川の支流が北流し、岡を囲むように東流している。遺物は縄文式土器・石鏃・黒曜石片・成川式土器を採集した。第1図2は黒褐色を呈する縄文時代の土器で、外面は条痕が観察される。第2図20はたんぱく石製の石鏃である。

## 10 永山B遺跡

吉松町川西字永山にあり、永山集落の北側で、鯛吾川の支流が合流する東側に位置する。標高は約225mで現況は畑及び水田である。発掘調査が行われた永山古墳群は東約300mの位置にある。遺物は土師器が散布していた。

## 11 前田遺跡

吉松町鶴丸字前田にあり、国鉄吉都線鶴丸駅の南側周囲で、栗野岳から広がる丘陵の末端に近い台地である。標高は約225mの畑地である。遺物は土師器・須恵器が多く散布していた。第1図8は土師器坏の底部である。9は須恵器壺の口縁部で、11は甕の肩部であり、内面に同心円叩きが見られる。12は内面に、14は内外面とも平行叩きが見られる。15は坏の底部であり高台を有する。これらの須恵器は奈良～平安時代のものと思われる。

## 12 頭無遺跡

吉松町鶴丸字頭無にあり、地震記念公園の西約600m、原口集落の中にある。北に石小川、南に池湖川が流れる台地の中央に位置する。遺物は土師器と青磁（第1図18）を採集した。

### 13 下沼遺跡

吉松町中津川字下沼にあり、鹿兒島刑務所の北側、坂口集落の東側に位置している。台地の南側は、竹島池から流れる小川によって細長い水田地となる。標高は約270mで広い畑である。遺物は黒曜石片・成川式土器を採集した。

### 14 堂ノ迫遺跡

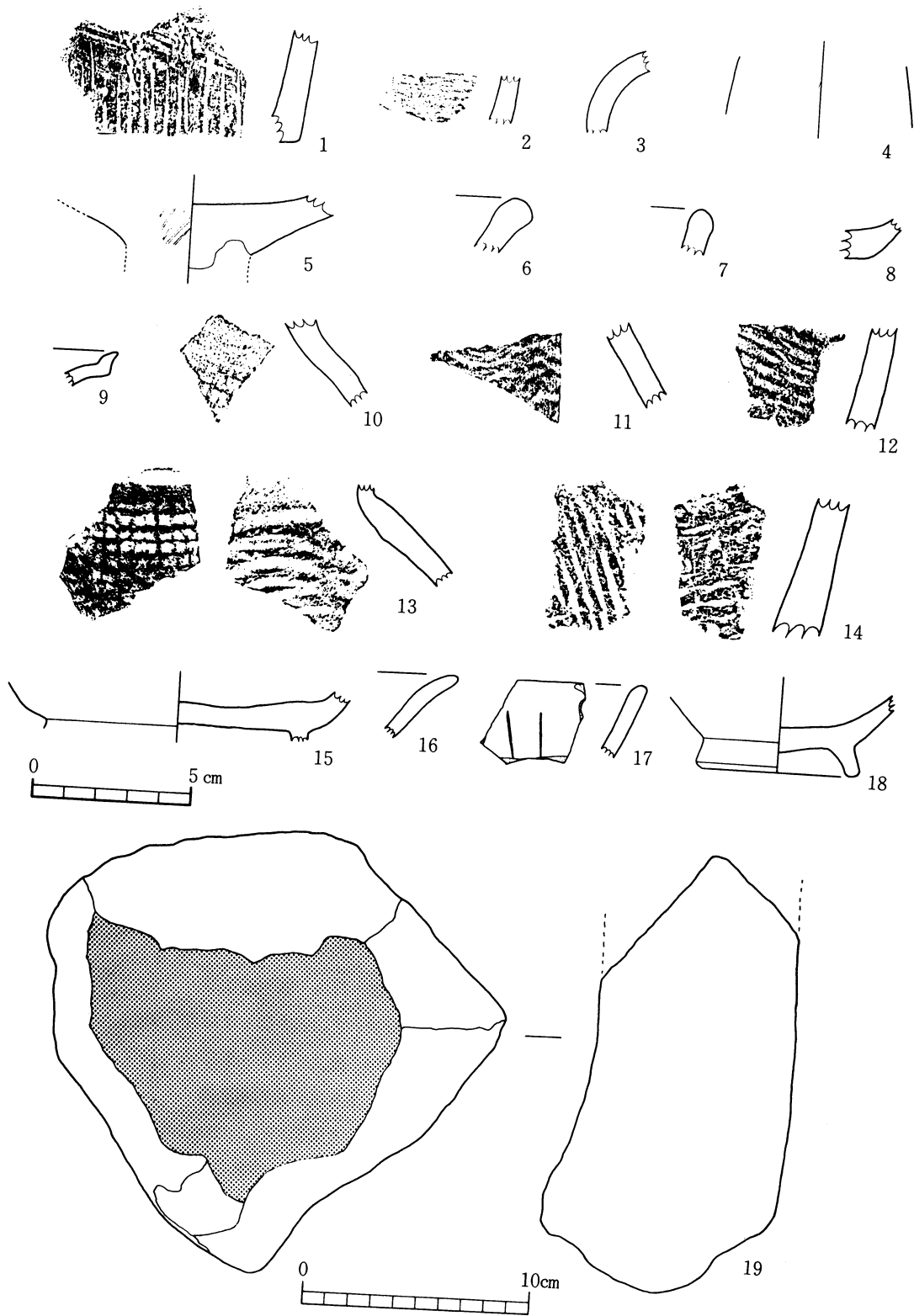
吉松町川添字堂ノ迫にあり、栗野岳麓の裾野の末端に位置する台地の先端に所在する。標高は約270mで、西側には比高差60mで水田が広がっている。第1図10は須恵器である。甕の肩部にあたり、外面は格子叩きが見られる。奈良～平安時代のものと思われる。

### 15 三堂B遺跡

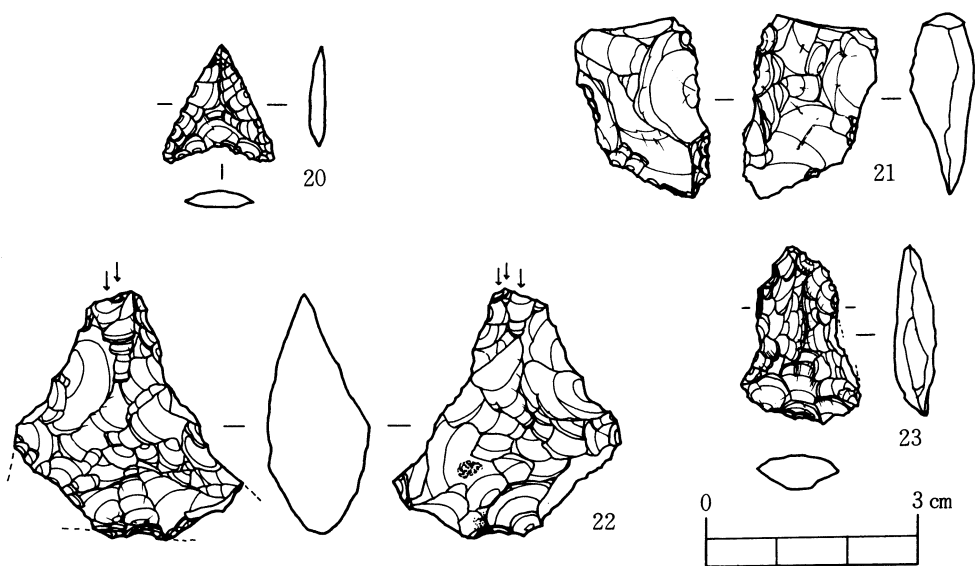
吉松町川添字三堂にあり、竹中池から北へ約300mの位置にある。三堂集落の北約100mで、周囲は山林であるが、一部畑となっている。遺物は黒曜石片・土師器を採集した。

第1表 吉松町管内の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	市原	吉松町般若寺字中原	縄文・古墳 ～歴史	スクレイパー・成川式 土器・土師器・青磁	
2	井尻	〃 〃 井尻	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石・石鎌・成川式 土器・土師器・青磁	
3	今園	〃 川西公園	縄文・歴史	縄文式土器(前平式)・土師器	
4	諏訪原	〃 〃 諏訪原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
5	牛ヶ谷	〃 〃 牛ヶ谷	古墳	成川式土器	
6	城ヶ尾	〃 〃 城ヶ尾	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・黒曜石・土 師器・須恵器・成川式土器	
7	高野路	〃 〃 高野路	縄文・古墳	石皿・成川式土器	
8	陣ノ内	〃 〃 陣ノ内	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
9	越水	〃 〃 越水	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・ 石鎌・成川式土器	
10	永山B	〃 〃 永山	歴史	土師器	
11	前田	〃 鶴丸 前田	歴史	土師器・須恵器	
12	頭無	〃 〃 頭無	歴史	土師器・青磁	
13	下沼	〃 中津川 下沼	縄文・古墳	黒曜石・成川式土器	
14	堂ノ迫	〃 川添 堂ノ迫	歴史	須恵器	
15	三堂B	〃 〃 三堂	縄文・歴史	黒曜石・土師器	



第1図 吉松町管内遺跡採集遺物(1)



第2図 吉松町管内採集遺物(2)

## 第2節 栗野町管内の分布調査

栗野町の調査は昭和60年11月11日から11月28日まで実施した。

栗野町は県北に位置し、北は吉松町、西は菱刈町・薩摩町、南は横川町・牧園町、東は宮崎県にそれぞれ接している。東側は霧島山系栗野岳の裾野が広がり、北は国見山系の丘陵が伸び、西側には国見岳の丘陵となっている。町の中央は川内川が弧を描きながら西流し、わずかに沖積地が形成されている。

町内の遺跡は丘陵の裾部及び川内川を望む台地の先端に多く、昭和60年の「鹿児島県市町村別遺跡地名表」によると、旧石器時代1、縄文時代10、弥生時代10、古墳時代の地下式横穴群1、土師器・須恵器が散布する遺跡1、城跡3等が知られており、また県の史跡として指定されている稲葉崎供養塔群や田尾原供養塔群が記載されている。

町内の遺跡の中では、昭和49年高校建設に伴い花ノ木遺跡が、また昭和42年～54年には九州縦貫道建設に伴い、山崎B・木場A・木場A-2等の各遺跡の発掘調査が行われ、旧石器時代から奈良～平安時代に致る各時代の遺構及び遺物が検出された。一方昭和45年に調査が行われた北方地下式横穴は、現在でもそのまま保存され見学できるようになっている。

この他にも栗野町では地元の米満重満氏によって、長年にわたり精力的に分布調査が行われており、確認された遺跡と遺物の一部は既に公表されているところである。<sup>(注)</sup> 今回の調査でも、40ヶ所を越える多数の遺跡を確認することができたが、ここでは米満氏によって確認されたものも合わせて報告したい。それによって栗野町内の遺跡分布地図が充実したものになると思われる。また過去調査された遺跡についても、その遺跡の広がりを確認した。

注) 林昭男・米満重満 1973年「栗野町の遺跡について」鹿児島考古 第8号

### 1 平田遺跡

栗野町田尾原字平田にあり、田尾原川の上流に位置する。標高は約250mの丘陵先端部で、南側に水田を望む。遺物は縄文時代の鐘ヶ崎式土器等が採集されている。

### 2 中尾遺跡

栗野町田尾原字中尾にあり、平田遺跡とは水田を隔てた南西方向約200mの位置である。岡状の丘陵先端で、南側に田尾原川が流れている。遺物は縄文時代の阿高式・並木式・南福寺式・岩崎式・西平式・黒川式等の各形式の土器の他、土師器及び須恵器も採集されている。第3図28は胎土に滑石が混入されたもので、内外面とも条痕が観察される縄文式土器である。49は土師器碗の底部片である。

### 3 鬼ヶ迫遺跡

栗野町稲葉崎字鬼ヶ迫にあり、国鉄稲葉崎駅から北へ約200m、稲葉崎供養塔群のそばの斜面である。遺物は内黒土師器を採集した。

### 4 馬越遺跡

栗野町田尾原字馬越にあり、田尾原供養塔群の北約100mの斜面に位置する。標高約230mの畑地である。遺物は縄文式土器を採集した。小片のため形式等は不明である。

### 5 天神原遺跡

栗野町田尾原字天神原にあり、稲葉崎駅の東約500mの、川内川に突き出した舌状台地の先端に位置する。西側は天神川が流れ、台地の南側を西流する川内川と合流している。遺物は黒曜石片・成川式土器・土師器を採集した。第4図61は黒曜石製の錐状石器である。剝片を利用し、先端部に両方からノッチ状の調整を施している。

### 6 田尾原遺跡

栗野町田尾原字供養塚にあり、田尾原供養塔群の南側前面に広がる畑地に位置し、天神原遺跡に接している。標高は約230mである。遺物は黒曜石片・成川式土器・土師器を採集した。第3図32は成川式土器の甕形土器口縁である。内外面ともに刷毛目調整が見られる。胎土には砂粒を多く混入し、焼成は良い。42は土師器の鉢と思われる。50も土師の坏あるいは碗の底部と思われる。

### 7 下原遺跡

栗野町田尾原字下原にあり田尾原集落のある台地の南端に位置する。東側は田尾原川が流れ川内川に合流している。遺物は縄文式土器・黒曜石片・土師器を採集した。第3図30は市来式土器と思われる。

### 8 老神原遺跡

栗野町北方字老神原にあり、下原遺跡とは田尾原川を隔てた対岸に位置する。標高約190mである。遺物は縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器を採集した。第3図52は須恵器である。内面は同心円叩き、外面は格子叩きが残っている。焼成はやや軟質である。奈良～平安時代のものと思われる。

## 9 原遺跡

栗野町北方字原にあり、本村集落の北約250mの位置で、標高約220mの斜面である。遺物は成川式土器及び土師器が少量散布していた。

## 10 西ノ口遺跡

栗野町北方字西ノ口にあり、楽器工場及び紡績工場がある台地の南側の畑地である。舌状台地の先端部で、標高は約230mである。遺物は土師器を採集した。なお台地の西側先端は既に砂取りが行われており、遺跡の一部は破壊された可能性があると思われる。

## 11 北方地下式横穴群

栗野町北方字小屋敷にあり、町立病院の周囲から北側に広がる畑地に位置する。昭和45年、発見と同時に二基の地下式横穴の調査が行われ、人骨とともに鉄剣・鉄鏃・骨鏃が副葬品として検出されている。台地一帯は成川式土器・土師器が広く散布しており、遺跡の広がりは大いものと思われる。

## 12 宮下遺跡

栗野町北方字宮下にあり、宮下集落の北側に接する畑に位置する。遺物は黒川式土器等の縄文時代土器が採集されている。

## 13 本堂遺跡

栗野町北方字本堂にあり、丘陵末端に形成された台地の奥部に位置する。北方地区でも最も広い畑地であり、標高は約210mである。遺物は阿高式等の縄文式土器・石斧・石鏃・成川式土器・土師器が採集されている。

## 14 柿木原遺跡

栗野町北方字柿木原にあり、東側に本堂遺跡と接し、水田地を望む台地先端部に位置している。標高は約200mである。遺物は押型文・轟式・曾畑式等の縄文式土器や、石斧・石鏃、成川式土器、土師器・須恵器が多量に採集されている。第4図63・64は砂岩製の磨石である。63は片面中央に敲打痕が円形に残り、凹石としても利用されている。

## 15 北方中尾遺跡

栗野町北方字中尾にあり、柿木原遺跡の北約200mの位置にある。標高は約200mの丘陵末端の斜面である。遺物は縄文式土器・黒曜石片・石鏃・成川式土器・土師器を採集した。第4図59はチャートの横長剝片を使用し、全体を二等辺三角形に仕上げている。

## 16 永山A遺跡

栗野町北方字永山にあり、国鉄肥薩線熊峯トンネルの約400m西で、二つの谷川が合流する地点に突き出た丘陵末端に位置する。遺物は押型文・阿高式等の縄文式土器・石鏃・石匙等が採集されている。

## 17 永山B遺跡

栗野町北方字永山にあり、永山A遺跡の南東、約300mの位置にある。遺物は成川式土器・土師器と採集した。第3図45は土師器坯の底部である。

## 18 立野原遺跡

栗野町北方字立野原にあり、堂の上集落内の畑地に位置する。独立した岡状の地形で、周囲は水田地が広がり、約50m西側は国鉄肥薩線が走る。遺物は成川式土器を採集した。

## 19 諏訪岡遺跡

栗野町木場字諏訪岡及び上原にあり、栗野町市街地を見渡す東側の、標高約220mの岡状の台地に位置する。台地のすぐ下は栗野中学校があり、南側には調査が行われた山崎B遺跡が所在し、現在は九州縦貫道栗野インターになっている。遺物は阿高式・南福寺式・岩崎式等の縄文式土器の他、石鏃・石斧・成川式土器・土師器・青磁等が採集されている。第4図62は黒曜石製の錐状石器である。剥片を利用し、片側縁辺からノッチ状に整形を施し、先端部は使用のためと思われる剝離痕が残っている。第3図53は青磁の稜花皿である。

## 20 木場A遺跡

栗野町木場字外堀にあり、長谷集落の北側に位置し、標高約260mで栗野岳の裾野台地である。遺跡の中央部を九州縦貫自動車道が通り、そのため遺跡の一部は発掘調査が実施された。旧石器時代・縄文時代・古墳時代・奈良平安～中世まで、各時期の遺構や遺物が多く検出されている。特に旧石器時代では、シラス直上からナイフ形石器と同時に集石遺構が確認された。また周辺には遺物の散布が台地に広く見られ、遺跡の範囲の広さが大きいことが考えられる。第3図25は押型文土器である。

## 21 木場A-2遺跡

栗野町木場字本城にあり、木場A遺跡の約300m北西方向に位置する。この遺跡も九州縦貫自動車道建設に伴い、一部は発掘調査が実施されたが、残存部分がある。ここでは旧石器時代の三稜尖頭器が多く検出された。

## 22 楠原遺跡

栗野町木場字楠原にあり、木場A遺跡の東側、標高約340mの一段高い広大な台地の先端部に位置している。遺物は縄文式土器・黒曜石片・成川式土器を採集した。第3図39は壺形土器の口縁部近くである。41は高坏形土器の脚部である。両方とも古墳時代のものと思われる。

## 23 花ノ木遺跡

栗野町木場字花ノ木にあり、県立栗野工業高校の周囲に位置している。遺跡の一部は高校の移転に伴い、昭和49年発掘調査が行われた。遺物は平椀式・塞ノ神式・轟式等の縄文式土器や石鏃・石斧等が出土した。遺跡は高校の西側及び北側に広がりが見られる。第3図43は土師器壺形土器片である。外面に刷毛目、内面はヘラ削りが見られる。

## 24 牧野遺跡

栗野町木場字牧野にあり、栗野工業高校の北東部にあり、黒曜石片等が採集されている。

## 25 踏切A遺跡

栗野町木場字踏切にあり、桜ヶ岡集落の西側に位置する。遺物は縄文式土器・成川式土器を採集した。

## 26 踏切B遺跡

栗野町木場字踏切にあり、踏切A遺跡の東約300mで、桜ヶ岡集落の南側に位置する。標高は約300mである。遺物は縄文式土器・成川式土器を採集した。第3図29は沈線が施された縄文時代のもので、外面にススが付着している。

## 27 下佐牟田遺跡

栗野町木場字下佐牟田にあり、標高約330mの斜面に位置する。南側には小川が流れている。遺物は縄文式土器・黒曜石片・石鏃・成川式土器・土師器を採集した。第4図57は不純物のない良質な黒曜石を素材とした石鏃で、基部は欠損している。

## 28 城ヶ尾B遺跡

栗野町木場字城ヶ尾にあり、栗野工業高校の東約300mの位置にある岡状の台地斜面である。遺物は成川式土器・土師器を採集した。第3図44は土師器環であり、48は高台を有する内黒土師器の碗である。51も土師器底部片である。

## 29 池ノ迫A遺跡

栗野町木場字池ノ迫にあり、花ショウブ自生南限地である三日月池の周囲の畑地である。遺物は縄文式土器・黒曜石片・土師器を採集した。

## 30 池ノ迫B遺跡

栗野町木場字池ノ迫にあり、三日月池の東約500mの位置にある。南側は入り組んだ谷があり、北側は台地が斜面になって広がっている。標高は約280mである。遺物はナイフ形石器・縄文式土器・成川式土器・土師器を採集した。第4図54はナイフ形石器であり、不純物の少ない良質な黒曜石を素材としている。側縁は入念なブランディングが施されており、半分欠損している。第3図46は土師器底部、47は内黒土師器の碗と思われる。

## 31 池ノ迫C遺跡

栗野町木場字池ノ迫にあり、三日月池の東約900mの位置にある。遺物は黒曜石片を採集した。

## 32 上佐牟田A遺跡

栗野町木場字上佐牟田にあり、三日月池の東約1300mの位置にある。栗野岳丘陵の中間部で標高は約290mである。遺跡の中央に小川が流れ、両側の台地から遺物が見られる。遺物は燃糸文・押型文・吉田式・轟式・曾畑式等の縄文式土器、石鏃・石匙・削器・搔器・尖頭器様石器の他、刻目凸帯文土器も採集されている。近辺には多数の遺跡が所在しているが、遺物の量が最も多い遺跡である。

## 33 上佐牟田B遺跡

栗野町木場字上佐牟田にあり、上佐牟田A遺跡の北側に位置する。遺物は縄文式土器・黒曜石片・石鏃・成川式土器・土師器を採集した。第3図27は条痕が見られるものである。31は口縁部が厚くなり一条の沈線が施されている。31は縄文時代晩期のものと思われる。第4図55は黒曜石製、56はチャート製片面調整の石鏃である。65は砂岩製の石皿片である。



#### 34 西原遺跡

栗野町木場字西原にあり、上佐牟田A遺跡の南側に接している。遺物は成川式土器・土師器を採集した。第3図40は成川式土器の甕形土器底部近くである。

#### 35 日当野遺跡

栗野町木場字日当野にあり、上佐牟田A遺跡の東約250mの位置にあり、西に向いた斜面である。成川式土器少量が散布していた。

#### 36 老谷A遺跡

栗野町木場字老谷にあり、竹田集落の西側で、日当野遺跡とは谷を隔てた南側に位置する。また西側には谷を隔てて西原遺跡が所在する。遺物は縄文式土器・黒曜石片・成川式土器を採集した。

#### 37 肥遺跡

栗野町木場字肥にあり、竹田集落の中の標高約280～300mの西に傾斜した台地に位置する。台地の南側には小川が流れている。遺物は縄文式土器・成川式土器を採集した。第3図34は成川式土器で、内外面に刷毛目調整が行われている。また小片であるが、滑石製石鍋片も採集した。

#### 38 老谷B遺跡

栗野町木場字老谷にあり、竹田集落の南端、肥遺跡とは谷を隔てている。標高は約270mで東に向いた斜面である。遺物は縄文式土器・黒曜石片・石鏃・成川式土器・土師器を採集した。

#### 39 大段遺跡

栗野町木場字大段にあり、老谷集落の約300m南側で、標高約260mの岡状の斜面に位置する。土器片・黒曜石片等が採集されている。

#### 40 上掛遺跡

栗野町木場字上掛にあり、上掛集落の西端に位置している。南側は佃川が流れ、水田となっている。標高は約200mで南に向いた斜面の畑地である。遺物は阿高式・並木式・南福寺式・岩崎式・出水式等の縄文式土器片や、石鏃・石皿・石匙等が採集されている。

#### 41 十三塚遺跡

栗野町木場字十三塚にあり、栗野岳から広がる裾野の中ほどに位置し、標高は約410mである。南側に湯谷川が流れる。遺物は縄文式土器片・磨製石斧が採集されている。

#### 42 射場平遺跡

栗野町木場字射場平にあり、岩脇集落の東約400mの位置にあり、標高は約430mである。北側に湯谷川が流れ、対岸の台地約500m北には十三塚遺跡が所在する。遺物は撚糸文・押型文・轟式・曾畑式・阿高式等の縄文式土器が採集されている。

#### 43 牧後遺跡

栗野町木場字牧後にあり、岩脇集落の南側に位置し、西へ向いた斜面である。遺物は縄文式土器が採集されている。

#### 44 大水堀遺跡

栗野町木場字大水堀にあり、竹田集落の東約800m、標高約440mの位置にある。東側眼下に上佐牟田・肥遺跡が見えている。遺物は前平式・塞ノ神式・曾畑式等の縄文式土器の他に、須恵器も採集されている。

#### 45 田ノ頭遺跡

栗野町米永字田ノ頭にあり、王ノ山集落の東、県道横川～栗野線と九州縦貫自動車道との間に位置する。遺物は縄文式土器・黒曜石片等が採集されている。

#### 46 上別府遺跡

栗野町米永字後ヶ迫にあり、別府集落の東約300mの北に向いた斜面に位置する。標高は約240mである。遺物は成川式土器を採集した。

#### 47 木場原遺跡

栗野町木場字木場原にあり、水窪集落より西約500mの位置にある。標高は約230mで、北に向かった斜面である。遺物は成川式土器・土師器を採集した。

#### 48 村前遺跡

栗野町木場字村前にあり、水窪集落の南に接した畑地である。標高は約220mで、東側に佃川が流れ、谷が形成されている。遺物は成川式土器・土師器を採集した。

#### 49 下水流遺跡

栗野町恒次字下水流にあり、国鉄山野線稲葉崎駅より西へ約600m、川内川を望む小丘陵の先端部斜面に位置し、標高は約190mである。遺物は縄文式土器・黒曜石片・成川式土器を採集した。

#### 50 二渡遺跡

栗野町恒次字二渡にあり、轟小学校の西約200mの北に面した集落の中にある。南側は幸田川が流れ水田となっている。標高は約200mである。遺物は縄文式土器片・たんぱく石片・チャート片を採集した。第3図24は押型文土器である。口縁部近くと思われ、内面上部にも施文されている。

#### 51 池添遺跡

栗野町恒次字池添にあり、川内川左岸上村集落の北に接している。階段状の地形が突き出した、岡状の台地の、標高約190mのなかほどから先端にかけて遺物が見られる。遺物は阿高式と思われるものや無文の縄文式土器、石斧、黒曜石あるいは頁岩製の石鏃、黒曜石片、黒曜石の原石等が採集されている。

#### 52 浜場遺跡

栗野町恒次字浜場にあり、川内川が大きく北へ曲がる植村集落の南東約400mの位置にある。地下式横穴群やその他の遺跡が所在する北方の台地とは川内川を隔てた対岸にあたる。標高は約210mであり、川内川に向いた斜面である。遺物は縄文式土器・チャート片・成川式土器を採集した。

### 53 大牟礼A遺跡

栗野町幸田字陣ヶ岡にあり、大牟礼集落の北端部、南に傾斜した標高約280mの丘陵状の畑地に位置する。遺物は細片となった土器片が採集されている。

### 54 大牟礼B遺跡

栗野町幸田字陣ヶ岡にあり、大牟礼集落の東側、南に少し向いた岡状の畑に位置する。標高は約270mである。遺物は黒曜石片・成川式土器を採集した。

### 55 大牟礼C遺跡

栗野町幸田字山角にあり、大牟礼B遺跡の南側に接している。標高は約280mであり、北側に傾斜する台地の先端部に位置している。遺物は縄文式土器・石鏃・成川式土器を採集した。第4図60は石鏃である。たんぱく石を素材とし、入念な調整剝離によって細身に仕上げている。

### 56 佐々田遺跡

栗野町幸田字佐々田にあり、幸田小学校の西約700mの位置にある。南側は幸田川が流れ、細長い水田地となっている。標高は約290mで南に面した台地の傾斜面である。遺物は縄文式土器・黒曜石片・成川式土器・土師器を採集した。第3図26は外面に条痕文が見られる縄文式土器である。小片のため形式は不明である。33は外面に刷毛目調整が見られ、成川式土器と思われる。

### 57 幸田頭遺跡

栗野町幸田字井手上にあり、佐々田遺跡の西約400mの位置で、標高は約280mである。幸田川に向かった台地の先端に所在する。遺物は縄文式土器・黒曜石・成川式土器を少量採集した。

### 58 幸田柿木原遺跡

栗野町幸田字柿木原にあり、幸田小学校の南約600mの北に面した台地斜面に位置する。台地北側前面には幸田川が流れる。標高は約270mである。遺物は縄文式土器・黒曜石片・石鏃・成川式土器を採集した。第4図58は石鏃である。不純物のない良質の黒曜石を素材とし、小三角形に仕上げている。

### 59 岩元遺跡

栗野町幸田字岩元にあり、幸田小学校から東へ約800mの位置にある。西側に向かった低い岡状の傾斜地の先端で、標高は約250mである。前面は二つの小川が合流している。遺物は黒曜石片・成川式土器・土師器を採集した。

### 60 前原遺跡

栗野町幸田字前原にあり、標高約260mの台地の中央部に位置する。遺物は成川式土器を採集した。

### 61 段遺跡

栗野町幸田字大王原にあり、大王集落の南側に接している。標高は約260mの北に向いた傾斜地である。遺物は成川式土器・土師器を採集した。

## 62 水上原遺跡

栗野町幸田字水上原にあり、大王集落より、東南方向へ約500mの位置にある。標高約260mの台地先端部であり、南側眼下には谷が走る。遺物は成川式土器を採集した。

## 63 カマチ迫遺跡

栗野町幸田字カマチ迫にあり、前原遺跡の南約400mの場所に位置する。標高は約260mである。遺物は縄文式土器・黒曜石片・成川式土器・青磁を採集した。第3図37は甕形土器の口縁部である。成川式土器と思われる。

## 64 雨堤遺跡

栗野町幸田字雨堤にあり、幸田南集落より東へ約300mの位置にある。岡状の小丘陵であり、標高は約260mである。東側は谷が入り組んでおり、谷を隔てた台地には水上原遺跡がある。遺物は成川式土器を採集した。

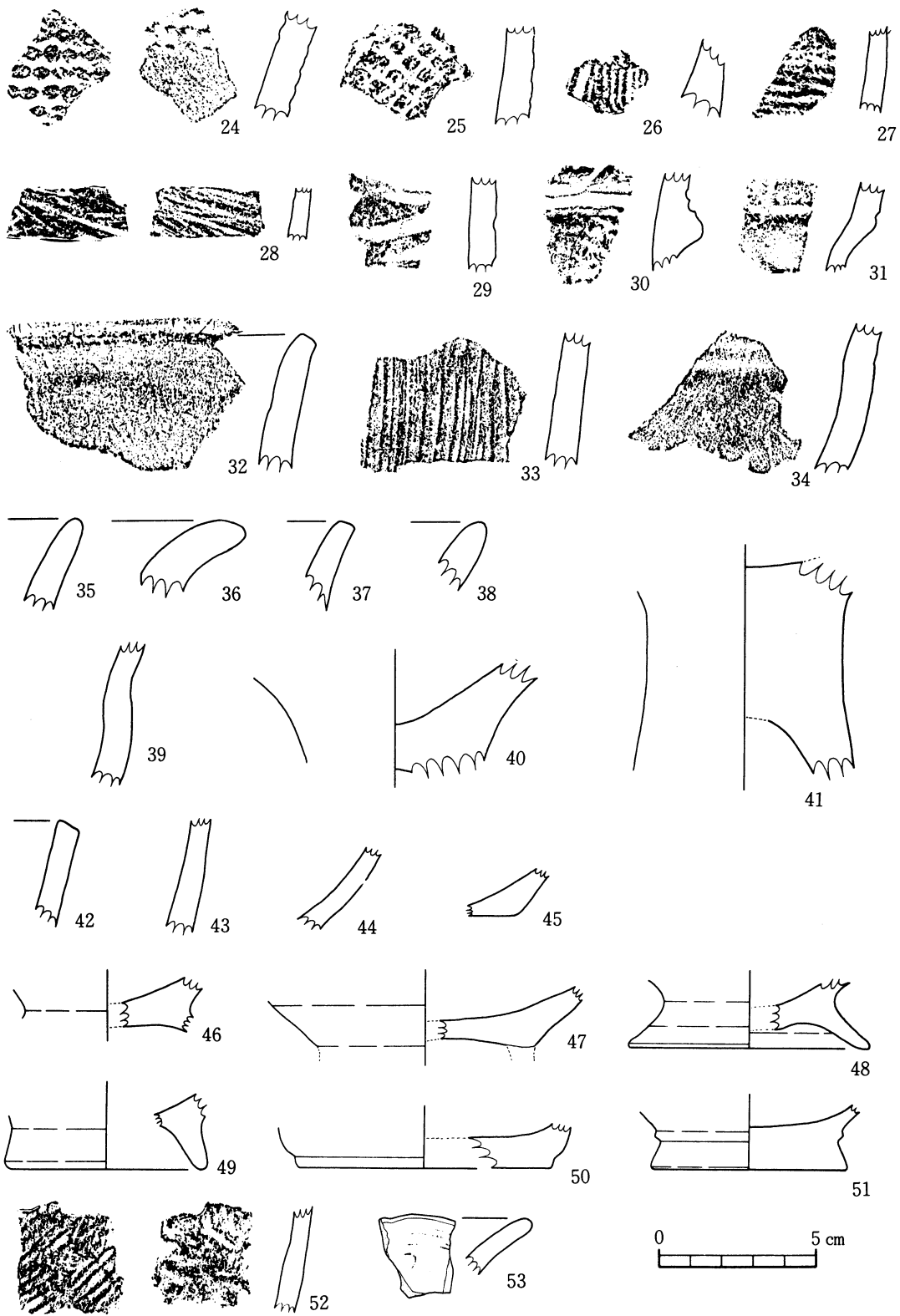
第2表 栗野町管内遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	平田	栗野町田尾原字平田	縄文	縄文式土器(鐘ヶ崎式)	
2	中尾	〃 〃 中尾	縄文・歴史	縄文式土器(阿高式・並木式・南福寺式・岩崎式・西平式・黒川式)	
3	鬼ヶ迫	〃 稲葉崎 鬼ヶ迫	歴史	土師器	
4	馬越	〃 田尾原 馬越	縄文	縄文式土器	
5	天神原	〃 〃 天神原	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石・成川式土器・土師器	
6	田尾原	〃 〃 供養塚	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石・成川式土器・土師器	
7	下原	〃 〃 下原	縄文・歴史	縄文式土器・黒曜石・土師器	
8	老神原	〃 北方 老神原	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器	
9	原	〃 〃 原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
10	西ノ口	〃 〃 西ノ口	歴史	土師器	
11	北方地下式横穴群	〃 〃 小屋敷	古墳	鉄刀・鉄剣・鉄鏃・骨鏃・成川式土器・土師器	昭和45年発掘調査
12	宮下	〃 〃 宮下	縄文	縄文式土器(黒川式)等	

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
13	本堂	栗野町北方 本堂	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器（阿高式） 石斧・石鏃・成川式土器・土師器	
14	柿木原	〃 〃 柿木原	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器（押型文・ 轟式・曾畑式）石斧・ 石鏃・成川式土器・土師器・須恵器	
15	北方中尾	〃 〃 中尾	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・黒曜石・ 石鏃・成川式土器・土師器	
16	永山A	〃 〃 永山	縄文・古墳	縄文式土器（押型文・ 阿高式）・石鏃・石匙	
17	永山B	〃 〃 〃	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
18	立野原	〃 〃 立野原	古墳	成川式土器	
19	諏訪岡	〃 木場字諏訪岡	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器（阿高式・ 南福寺式・岩崎式）・ 石鏃・石斧・成川式土器・土師器・青磁	
20	木場A	〃 〃 外堀	旧石器・縄文・古墳～歴史	ナイフ形石器・細石刃 縄文式土器（早期～後期までの多くの形式）	昭和54～55年発掘調査
21	木場A-2	〃 〃 本城	旧石器・縄文	ナイフ形石器・三稜尖頭器・細石刃・削器・細石刃核	昭和53～54年発掘調査
22	楠原	〃 〃 楠原	縄文・歴史	縄文式土器・黒曜石・成川式土器	
23	花ノ木	〃 〃 花ノ木 葛掛	縄文・古墳	縄文式土器（石坂式・吉田式・前平式・平椀式・塞ノ神式・轟式等）	昭和49年発掘調査
24	牧野	〃 〃 牧野	縄文	黒曜石等	
25	踏切A	〃 〃 踏切	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
26	踏切B	〃 〃 〃	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
27	下佐牟田	〃 〃 下佐牟田	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・石鏃・成川式土器・土師器	

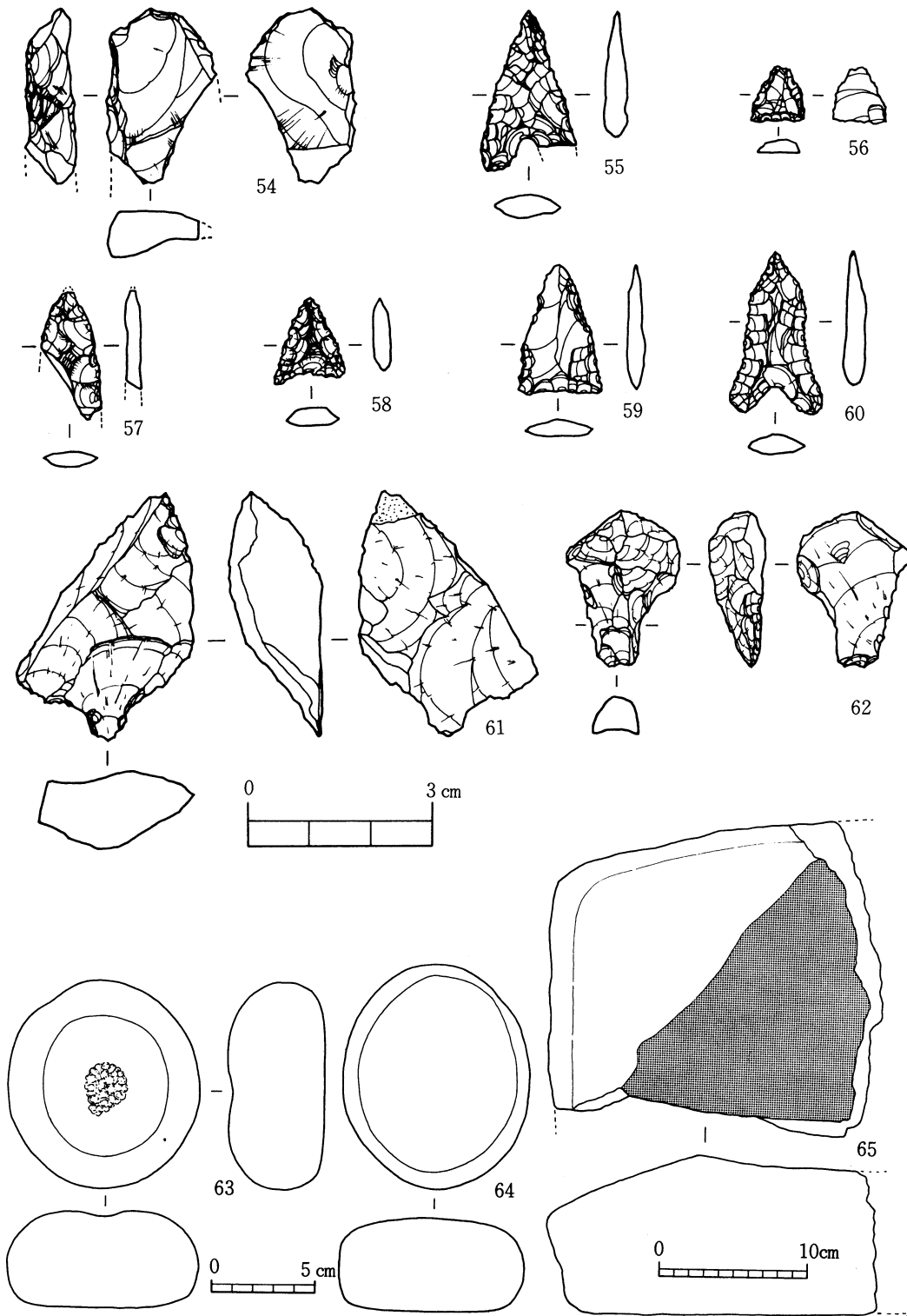
No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
28	城ヶ尾B	栗野町木場 城ヶ尾	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
29	池ノ迫A	〃 〃 池ノ迫	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・土師器	
30	池ノ迫B	〃 〃 〃	旧石器・縄文・古墳～歴史	ナイフ型石器・縄文式土器・成川式土器・土師器	
31	池ノ迫C	〃 〃 〃	縄文	黒曜石	
32	上佐牟田A	〃 〃 上佐牟田	縄文	縄文式土器(撚糸文・押型文・吉田式・轟式・曾畑式)・石鏃・石匙等	
33	上佐牟田B	〃 〃 〃	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・黒曜石・石鏃・成川式土器・土師器	
34	西原	〃 〃 字西原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
35	日当野	〃 〃 日当野	古墳	成川式土器	
36	老谷A	〃 〃 老谷	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・成川式土器	
37	肥	〃 〃 肥	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
38	老谷B	〃 〃 老谷	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・黒曜石・石鏃・成川式土器・土師器	
39	大段	〃 〃 大段	縄文	縄文式土器・黒曜石	
40	上掛	〃 〃 上掛	縄文	縄文式土器(阿高式・並木式・南福寺式・岩崎式・出水式)・石鏃・石皿・石匙	
41	十三塚	〃 〃 十三塚	縄文	縄文式土器・磨製石斧	
42	射場平	〃 〃 射場平	縄文	縄文式土器(撚糸文・押型文・轟式・曾畑式・阿高式)	
43	牧後	〃 〃 牧後	縄文	縄文式土器	
44	大水堀	〃 〃 大水堀	縄文・歴史	縄文式土器(前平式・塞ノ神式・曾畑式)須恵器	

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
45	田ノ頭	栗野町米永 田ノ頭	縄文	縄文式土器・黒曜石	
46	上別府	〃 〃 後ヶ迫	古墳	成川式土器	
47	木場原	〃 木場 木場原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
48	村 前	〃 〃 村前	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
49	下水流	〃 恒次 下水流	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・ 成川式土器	
50	二 渡	〃 〃 二渡	縄文	縄文式土器（押型文）・ たんぱく石・チャート	
51	池 添	〃 〃 池添	縄文	縄文式（阿高式）石斧 ・石鎌	
52	浜 場	〃 〃 浜場	縄文・古墳	縄文式土器・チャート ・成川式土器	
53	大牟礼A	〃 幸田 陣ヶ岡	縄文	縄文式土器	
54	大牟礼B	〃 〃 字陣ヶ岡	縄文・古墳	黒曜石・成川式土器	
55	大牟礼C	〃 〃 山角	縄文・古墳	縄文式土器・石鎌・成 川式土器	
56	佐々田	〃 〃 佐々田	縄文・古墳 ～歴史	縄文式土器・黒曜石・ 成川式土器・土師器	
57	幸田頭	〃 〃 井手上	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・ 成川式土器	
58	幸田柿木原	〃 〃 柿木原	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・ 石鎌・成川式土器	
59	岩 元	〃 〃 岩元	縄文・古墳 ～歴史	黒曜石・成川式土器・ 土師器	
60	前 原	〃 〃 前原	古墳	成川式土器	
61	段	〃 〃 大王原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
62	水上原	〃 〃 水上原	古墳	成川式土器	
63	カマチ迫	〃 〃 カマチ迫	縄文・古墳	縄文式土器・黒曜石・ 成川式土器・青磁	
64	雨 堤	〃 〃 雨堤	古墳	成川式土器	



第3図 栗野町管内遺跡採集遺物(1)





第4図 栗野町管内遺跡採集遺物(2)

### 第3節 牧園管内の分布調査

牧園町の調査は、昭和60年11月29日から12月12日まで実施した。

牧園町は、鹿児島市の北東約50km、県の北東部、始良郡の北東部に位置し、霧島火山郡の西南山麓部にあたる。東は霧島町、西は横川町、南は隼人町・霧島町、北は栗野町・宮崎県えびの市と接している。

町の南西部に天降川が中津川・石坂川・三体川・万膳川などの支流を集めて南流し、南東部に霧島川がそれぞれ深く切り立った溪谷・谷間を形成している。このため耕地面積は11%と少ない。

町内の遺跡は、昭和60年の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、縄文時代8、弥生時代1、古墳時代3、中世山城跡4が知られているが、本格的な調査はまだ行われていない。

今回の調査で27の遺跡が新たに確認された。

#### 1 成政遺跡

牧園町万膳字成政にあり、町の北西部万膳小学校の北東約400mの若干迫状となっている標高約200mの斜面地に位置する。南に万膳川が西流し、東には鑄河川が南流している。

遺物は、成川式土器片を採集した。

#### 2 井の手平遺跡

牧園町万膳字井の手平にあり、府島地区東側の南へ傾斜する標高約300mの畑地に位置する。南に比高30mで万膳川が西流している。

遺物は、土師器片・成川式土器片を少量採集した。

#### 3 宮園原遺跡

牧園町万膳字宮園原・九日田にあり、万膳小学校の東南東800m、八幡神社の南東200mの万膳川を望む細長い段丘上の端部に位置し、万膳川との比高差約10mを測る。

遺物は、縄文式土器小破片、土師器片・成川式土器片・黒曜石を採集した。66は成川式土器の口縁部片、67は土師器碗の底部、68は成川式壺の胴部片、69は成川式甕の頸部片である。102は黒曜石製の三稜ポイントである。

#### 4 前平遺跡

牧園町万膳字前平にあり、大窪地区の南側に広がる標高約310mの畑地に位置する。

遺物は、土師器片を少量採集した。

#### 5 古屋志遺跡

牧園町万膳字古屋志にあり、水堀地区<sup>みづほり</sup>の南側段丘状となった標高330mの台地上に位置する。遺跡の東に三体川が南流している。

遺物は、土師器片・成川式土器片を少量採集した。70は内黒土師器碗の底部破片である。

## 6 浅谷遺跡

牧園町万膳町字浅谷にあり、浅谷地区の北側にある台地の西側斜面に位置する。台地をはさんで東側に古屋志遺跡がある。

遺物は、成川式土器片を少量採集した。

## 7 供養塚遺跡

牧園町万膳字供養塚にあり、浅谷地区集落の西側の斜面に位置しており、浅谷遺跡とのつながりが予想される。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、成川式土器片、黒曜石を採集した。72・73は沈線文を、74は沈線文と連点文を施したもので塞ノ神A a 式の胴部片である。

## 8 梶の場遺跡

牧園町三体堂字梶の場にあり、浅谷地区の南西約1km、尾谷口地区の西約1kmの浅谷地区の台地南側端部に位置する。標高は約280mである。

遺物は、土師器片、成川式土器片、石鏃1本を採集した。103はチャート製の凹基式の石鏃片である。裏面に一次剝離面を残している。

## 9 赤子遺跡

牧園町三体堂字赤子にあり、赤子地区の北約300mの南へなだらかに傾斜する畑地に位置する。周知の遺跡「一本松遺跡（59-3）」の西約400mのところである。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代後期）、土師器片、成川式土器片を採集した。75は灯明皿の破片、76は沈線を施す岩崎式土器片である。

## 10 池ヶ谷遺跡

牧園町三体堂字池ヶ谷にあり、赤子地区集落から南にのびる尾根状台地の基部に位置する。近くに周知の遺跡「中野遺跡（59-2）」がある。

遺物は、成川式土器片少量を採集した。

## 11 弓張遺跡

牧園町宿窪田字弓張にあり、町役場の東約2kmの独立丘陵状となっている標高約270mの台地に位置する。周辺は多くが茶畑として利用されている。台地の北側には国道223号線が東西に走る。

遺物は、土師器片、成川式土器片、須恵器片を採集した。77は須恵器の壺の頸部片である。

## 12 真角原遺跡

牧園町宿窪田字柸木平・真角原にあり、中津川小学校の北西約1kmの弧状に広がる台地端部に位置する。遺跡の南側は複雑に入り込む開析谷が楕状にある。

遺物は、縄文式土器片、土師器片、成川式土器片、青磁片、石鏃1本を採集した。78は成川式土器の甕形土器の口縁部片である。口唇部は平担で外面は縦位のヘラなでである。79は青磁碗の底部片である。104は砂岩製の凹基式石鏃である。側辺は直線状となっている。

### 13 雷之原遺跡

牧園町下中津川字雷之原にあり、中津川小学校の西約1.3kmの畑地に位置する。周囲は開析による複雑な地形である。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、成川式土器片を採集した。80・81は沈線と沈線の間に捺系文を施す塞ノ神A b式土器の胴部片である。

### 14 谷門遺跡

牧園町上中津川字谷門にあり、谷門地区の標高約300mの台地上に位置する。西側の谷門川と東側の中津川が合流する地点の北側にあたる。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、土師器片、成川式土器片、黒曜石、石匙片を採集した。82は土師器碗の口縁部片、83は押圧縄文を施す縄文式土器片、84は微隆突帯を一条めぐらす縄文式土器片、85は沈線文と連点文を施す塞ノ神A a式土器の頸部片である。105はチャート製の石匙の破片である。

### 15 向中原遺跡

牧園町持松字向中原にあり、<sup>いちこがら</sup>市後柄地区の西側に広がる標高約350mの台地上に位置する。東に深迫川、西にその支流が南流している。

遺物は、縄文式土器片、土師器片、成川式土器片、黒曜石、チャートを採集した。

### 16 市後原遺跡

牧園町持松字市後原にあり、向中原遺跡の東約600mのところ<sup>に</sup>位置し、深迫川をはさんで対峙している。東側は小谷をはさんで霧島町と接している。

遺物は、縄文式土器片、土師器片、成川式土器片、黒曜石を採集した。86は成川式土器の甕形土器口縁部片、87は土師器碗の口縁部片、88は土師器碗の底部片である。89は土師器甕の頸部片である。

### 17 辻ノ原遺跡

牧園町持松字辻ノ原、今水原にあり、界子仏地区の東側台地上に位置し、烏帽子岳の裾末端部にあたる。東は霧島町と接し小谷を望む。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、成川式土器片、黒曜石を採集した。90は変形捺系文を施す深鉢形土器の頸部片である。

### 18 大合原遺跡

牧園町持松字大合原にあり、<sup>くれ</sup>崩渡地区の北西約500、両側の開析谷にはさまれた台地上に位置する。東は霧島町と接し、近くに狭名田川が流れている。

遺物は、土師器片、成川式土器片、チャートを採集した。

### 19 高尾尻遺跡

牧園町持松字高尾尻にあり、中津川小学校の東2 km、笹之段地区の南西500mの畑地に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。91は土師器碗の底部片である。

## 20 榎原遺跡

牧園町持松字聖原・榎原にあり、中津川小学校の東1.5km、持松小学校の北約1.7kmの尾根状にのびる台地の基部に位置する。東西には開析谷が入り込んでいる。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代後期）、土師器片、成川式土器片、チャートを採集した。92は指宿式土器の破片であろう。

## 21 権溜遺跡

牧園町持松字権溜にあり、中津川小学校の東2kmに広がる台地の南東端部に位置し、緩傾斜をもって持松川に続く。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。93は土師器碗の底部片である。

## 22 稼原遺跡

牧園町上中津川字穂年・船迫、下中津川字稼原・桜ヶ迫・大人形・喰田・大内迫、持松字小松原、榎原の広い範囲にわたる通称稼原にあり、中津川小学校の南約2kmに広がる稼原台地上に位置する。周辺は茶・桑等の畑地として利用されている。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代晩期）、土師器片・成川式土器片、須恵器片、石鉄1本、黒曜石を採集した。94は縄文式土器の口縁部片、95は土師器の鉢形土器の口縁部片、96は丹塗りの高環形土器の坏部片、97は研磨土器の破片、98は網目の組織痕文土器片、106は黒曜石製の石鎌である。

## 23 地頭原遺跡

牧園町下中津川字地頭原にあり、稼原台地の南西約1kmの稼原台地から尾根状にのびた端部に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

## 24 星合原A遺跡

牧園町下中津川字星合原にあり、町南端部の妙見温泉の東2kmの畑地に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

## 25 星合原B遺跡

牧園町下中津川字星合原にあり、星合原A遺跡の東の小谷をはさんで200mに台地端部に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。99は土師器碗の底部である。

## 26 西ノ原遺跡

牧園町下中津川字西ノ原にあり、町南端の西ノ原台地上に立地する。東南部は急崖をもって霧島川に面する。

遺物は、縄文式土器片、土師器片、成川式土器片、石鎌1本、剝片を採集した。100は成川式甕形土器の頸部片、101は脚部近くの破片である。

## 27 牧山遺跡

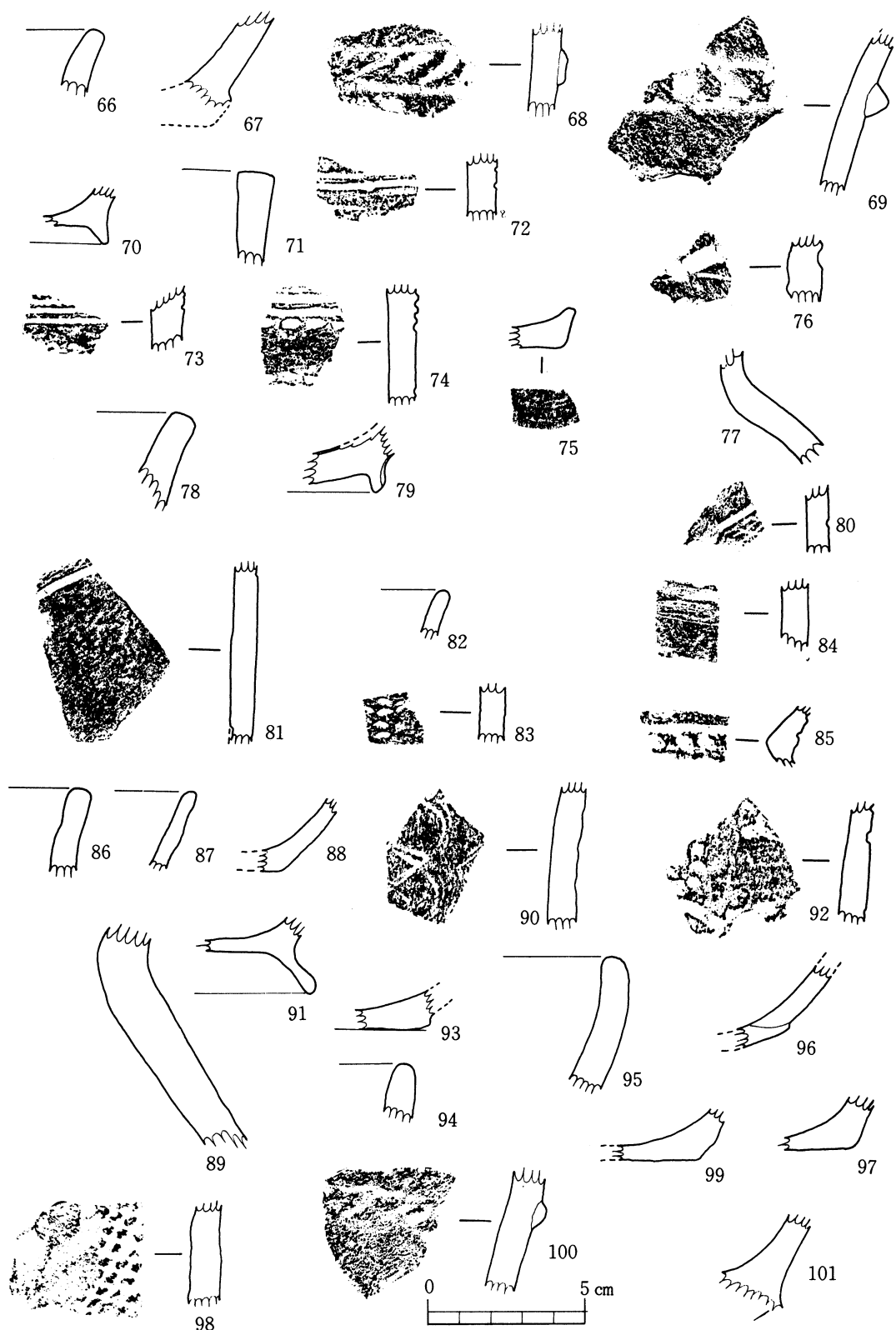
牧園町宿窪田字牧山にあり、安楽温泉の北西約750mの台地上に位置する。西は急崖をもつ

て天降川に面している。周囲は植林が行なわれて山林化が進んでいる。

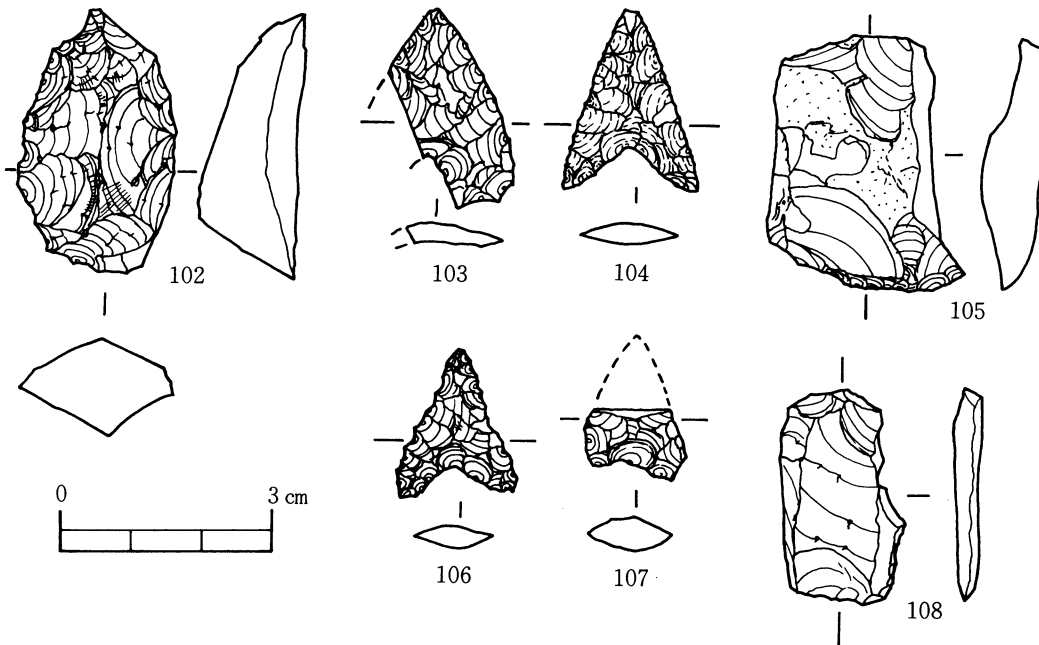
遺物は、成川式土器片を少量採集した。

第3表 牧園管内遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	成政	牧園町大字万膳小字成政	古墳	成川式土器	
2	井の手平	〃 〃 小字井の手平	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
3	宮園原	〃 〃 小字宮園原	旧石器・古墳	三稜ポイント・成川式土器・土師器	
4	前平	〃 〃 小字前平	古墳	成川式土器	
5	古屋志	〃 〃 小字古屋志	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
6	浅谷	〃 〃 小字浅谷	古墳	成川式土器	
7	供養塚	〃 〃 小字供養塚	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
8	梶の場	〃 大字三体堂小字梶の場	古墳	成川式土器・土師器・石鏃	
9	赤子	〃 〃 小字赤子	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器・土師器	
10	池ヶ谷	〃 〃 小字池ヶ谷	古墳	成川式土器	
11	弓張	〃 大字宿窪田小字弓場	古墳～歴史	成川式土器・土師器・須恵器	
12	真角原	〃 〃 小字真角原他	縄文～古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・青磁・石鏃	
13	雷之原	〃 大字下中津川小字雷之原	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
14	谷門	〃 〃 小字谷門	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・石匙	
15	向中原	〃 大字持松小字向中原	〃	〃	
16	市後原	〃 〃 小字市後原	〃	〃	
17	辻ノ原	〃 〃 小字辻ノ原他	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
18	大合原	〃 〃 小字大合原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
19	高尾尻	〃 〃 小字高尾尻	〃	〃	
20	榎原	〃 〃 小字榎原他	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器	
21	権溜	〃 〃 小字権溜	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
22	稼原	〃 〃 小字稼原他	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器・石鏃	
23	地頭原	〃 大字下中津川小字地頭原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
24	星合原A	〃 〃 小字星合原	〃	〃	
25	星合原B	〃 〃 〃	〃	〃	
26	西ノ原	〃 〃 小字西ノ原	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器	
27	牧山	〃 大字宿窪田小字牧山	古墳	成川式土器	



第5圖 牧園町管内遺跡採集遺物(1)



第5図 牧園町管内遺跡採集遺物(2)

#### 第4節 横川町管内の分布調査

横川町の調査は、昭和60年12月16日から12月20日まで実施した。

横川町は、鹿児島市の北東約50km、県の北部中央に位置する。東は牧園町、西は薩摩郡薩摩町・祁答院町・始良町、南は隼人町・溝辺町、北は栗野町と接している。

霧島火山群の西側山麓部分にあたり、西北部に源を発する天降川（金山川）が東流したあと牧園町との境を南流している。南部では久留味川が溝辺町との境を東流している。町内は天降川と久留味川水系の流域のみにしか水田は開けていずに、ほとんどは火山灰台地の丘陵地帯で畑地帯となっている。近年は九州縦貫自動車道が建設され、空港に近い条件を利用して地域開発が進められている。

町内には、昭和60年の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると、縄文時代3、弥生時代1、古墳時代2、中世山城跡6の遺跡が知られている。このうち中尾田遺跡は九州縦貫自動車道建設に伴って調査が実施され、中世山城跡・縄文時代早・前・中期の遺構・遺物が検出されている。当地名の横川は古代横川院の地として、鎌倉時代の頃からあらわれるものである。又横川城跡は近く公園化に伴う発掘調査が実施される予定である。

##### 1 江ヶ崎遺跡

横川町上ノ字江ヶ崎にあり、町最西部の野坂地区の北西に広がる標高380mの舌状台地上に位置する。南西部に南川が流れている。

遺物は、縄文式土器小破片、黒曜石、チャートを採集した。



## 2 浜弓場原遺跡

栗野町上ノ字浜弓場原にあり、町西部の木浦地区の西約800mの隣接する薩摩町へ通ずる道路の北側に位置する。付近は南へ緩傾する畑地となっている。

遺物は、土師器片、黒曜石、チャートを採集した。

## 3 浜弓場遺跡

栗野町上ノ字浜弓場にあり、木浦地区の西約500mの斜面地に位置する。

遺物は、青磁片を1片採集した。

## 4 池平遺跡

栗野町上ノ字池平にあり、横伏地区の北東側に位置する。貝吹岡裾部の舌状台地上で南側には久留味川が東流している。

遺物は、縄文式土器片、成川式土器片、須恵器片、黒曜石を採集した。109は外面が格子叩き、内面が平行叩きの須恵器片である。

## 5 迫田遺跡

横川町上ノ字迫田にあり、古城地区の南に広がる台地上に位置する。南には比高差約30mで紫尾田川が東流している。

遺物は、縄文式土器片を1片採集した。

## 6 小園原遺跡

横川町上ノ字小園原にあり、北ノ園地区の紫尾田川に面する台地端部の畑地に位置する。

遺物は、土師器片、黒曜石を採集した。

## 7 役所上遺跡

横川町上ノ字役所上にあり、紫尾田小学校の北西約300mの台地端部に位置する。南側に紫尾田川が東流する。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、土師器片を採集した。110は刻みをもつ細い突帯を貼りつけた口縁部片である。111は押圧縄文を施している。

## 8 中間原遺跡

横川町上ノ字中間原にあり、紫尾田小学校の南西約1kmの台地末端部の畑地に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片、黒曜石を採集した。

## 9 大久保遺跡

横川町上ノ字大久保にあり、紫尾田小学校の南約500mの台地端部に位置する。

遺物は、成川式土器片を少量採集した。

## 10 鼓原遺跡

横川町上ノ字鼓原にあり、紫尾田小学校の南西約1.5km、柿木地区の南西に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

## 11 方木山遺跡

横川町上ノ字鼓原・方木山にあり、鼓原遺跡の南に柿木地区からのびる尾根状となった台地

端部の東側部分に位置する。

遺物は、土師器片を採集した。112はヘラ切りの土師器底部片である。

#### 12 大住原遺跡

横川町上ノ字大住原にあり、柿木地の南約800mの床波地区へ通ずる道路の西側に位置する。

遺物は、成川式土器片を採集した。

#### 13 中原遺跡

横川町上ノ字中原にあり、柿木地区と岡村地区との中間に位置する。

遺物は、縄文式土器片、土師器片、成川式土器片、青磁片を採集した。113は外面に蓮弁文を陰刻する青磁碗の口縁部片である。

#### 14 柿木浜弓張遺跡

横川町上ノ字柿木浜弓張にあり、横川駅の南西部にある雨折岡の西側約800mに広がる台地上に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

#### 15 米原遺跡

横川町下ノ字米原にあり、霧島西口駅の西約2km、山住地区の南側畑地に位置する。周囲は北へ緩傾しており、馬渡が東流している。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

#### 16 梶遺跡

横川町下ノ字山住・梶・二俣・須崎にあり、霧島西口駅の西約1.5kmの山住地区から小原地区に続く東西に細長く広がる畑地に位置し、馬渡川がゆるやかに蛇行している。

遺物は、縄文式土器片（縄文時代前期）、土師器片、成川式土器片、須恵器片、青磁片を採集した。114は塞ノ神A a式土器の破片、115は鉢形の須恵器口縁部片、116は壺形の須恵器口縁部片、117は土師器口縁部片、118は土師器碗の底部片である。

#### 17 崩平遺跡

横川町中ノ字崩平・枯駄にあり、霧島西口駅の北々西約1.5km、黒葛原地区の北側台地端に位置する。東側に天降川が南流する。

遺物は、土師器片を少量採集した。

#### 18 羽山遺跡

横川町中ノ字羽山にあり、黒葛原地区の東にある微高地に位置する。周辺は水田として利用されている。

遺物は、土師器片、成川式土器片、須恵器片を採集した。119は須恵器底部片である。

#### 19 弓場原遺跡

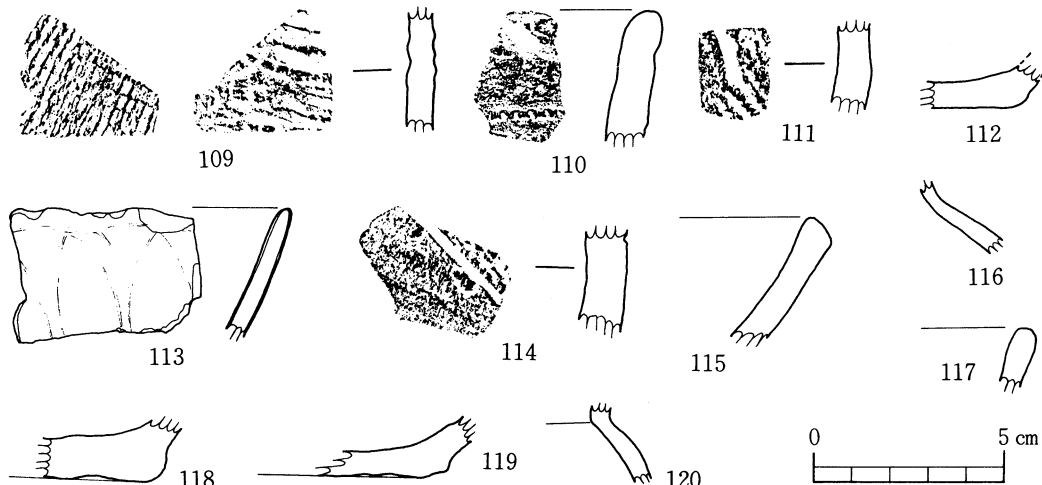
横川町下ノ字弓場原にあり、小原地区の東500mの畑地に位置する。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

20 姪原遺跡

横川町下ノ字姪原にあり，霧島西口駅の南500mの天降川に面する台地端部に位置する。

遺物は，縄文式土器片（縄文時代晩期），成川式土器片，黒曜石を採集した。120は浅鉢形土器の頸部片である。



第7図 横川町管内の採集遺物

第4表

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	江ヶ崎	横川町大字上ノ小字江ヶ崎	縄文	縄文式土器	
2	浜弓場原	〃 〃 小字浜弓場原	古墳～歴史	土師器	
3	浜弓場	〃 〃 小字浜弓場	歴史	青磁	
4	池平	〃 〃 小字池平	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器	
5	迫田	〃 〃 小字迫田	縄文	縄文式土器	
6	小園原	〃 〃 小字小園原	古墳～歴史	土師器	
7	役所上	〃 〃 小字役所上	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・土師器	
8	中間原	〃 〃 小字中間原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
9	大久保	〃 〃 小字大久保	古墳	成川式土器	
10	鼓原	〃 〃 小字鼓原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
11	方木山	〃 〃 小字鼓原方木山	〃	土師器	
12	大住原	〃 〃 小字大住原	古墳	成川式土器	
13	中原	〃 〃 小字中原	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・青磁	
14	柿木浜弓場	〃 〃 小字柿木浜弓場	古墳～歴史	成川式土器・土師器	
15	米原	〃 大字下ノ小字米原	〃	〃	
16	梶	〃 〃 小字山住・梶二俣・須崎	縄文・古墳～歴史	縄文式土器・成川式土器・土師器・須恵器・青磁	
17	崩平	〃 大字中ノ小字崩平・枯駄	古墳～歴史	土師器	

18	羽山	横川町大字中ノ小字羽山	古墳～歴史	成川式土器・土師器・須恵器	
19	弓場原	〃 大字下ノ小字弓場原	〃	成川式土器・土師器	
20	姪原	〃 〃 小字姪原	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	

## 第5節 溝辺町管内の分布調査

溝辺町の調査は、昭和60年12月23日から12月27日まで実施した。

溝辺町は、鹿児島市の北東約30km、県本土の中央部に位置し、東は隼人町、西は始良町・加治町、南は加治木町、北は横川町と接している。十三塚原と呼ばれる標高200～300mのシラス台地が広がって始良カルデラの北壁へと続く。東は天降川により霧島山系と隔てられ、西は網掛川によって蒲生山系と隔てられている。北の横川町との境を東流する久留味川、北西部から中央を南流する網掛川は水田地帯を形成してはいるものの十三塚原台地を中心とする畑地が広がっている。

町内の遺跡は、昭和60年の『鹿児島県市町村別遺跡地名表』によると縄文時代6、縄文時代～歴史時代10、縄文時代～弥生時代2、弥生時代～歴史時代6、弥生時代4、中世山城4が知られている。鹿児島空港・九州縦貫自動車道建設に伴って十三塚台地を中心として約20ヶ所で発掘調査が行われている。このうち石峰遺跡は縄文時代早期の押型土器の標式遺跡となっており、山神遺跡からは「奠」「広」「山」などの墨書土器が発見されており、縄文時代から奈良・平安時代にまでわたる遺跡が少なくない。

### 1 笹段遺跡

溝辺町有川字笹段にあり、丹生附集落の北側の北東へ傾斜する畑地に位置する。

遺物は、縄文式土器片、成川式土器片を少量採集した。

### 2 丹生附遺跡

溝辺町有川字丹生附にあり、丹生附集落の県立自然薬草の森へ通じる道路の反対側の畑地に位置し、その前面には水田が広がる。

遺物は、縄文式土器片、成川式土器片、土師器片を採集した。

### 3 榎原遺跡

溝辺町崎森字榎原にあり、大内田地区と久保山地区との間に広がる畑地に位置する。周知の久保山遺跡（55-18）とは連続することが予想される。

遺物は、土師器片・成川式土器片、チャートを採集した。

### 4 西原遺跡

溝辺町麓字西原にあり、馬立地区と久保山地区の間の畑地に位置する。久保山遺跡（55-18）とは連続すると考えられる。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

### 5 南十三塚B遺跡

溝辺町崎森字南十三塚にあり、十三塚原台地の南端部の立岩地区の北側畑地に位置する。周

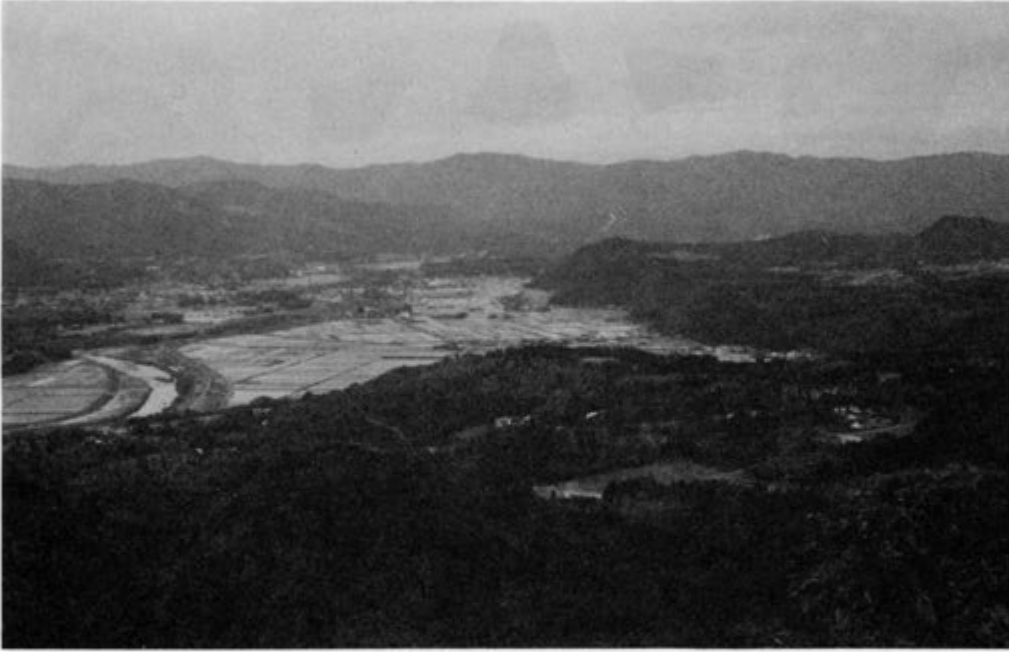
辺は農業基盤整備事業が進んでいる。

遺物は、土師器片、成川式土器片を採集した。

第5表 溝辺町管内の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	時代	遺物	備考
1	笹段	溝辺町大字有川小字笹段	縄文・古墳	縄文式土器・成川式土器	
2	丹生附	〃 〃 小字丹生附	古墳	成川式土器	
3	榎原	〃 大字崎森小字榎原	古墳～歴史	成川式土器・土師器	55-18に包括か
4	西原	〃 大字麓小字西原	〃	〃	〃
5	南十三塚B	〃 大字崎森小字南十三塚	〃	〃	

圖 版

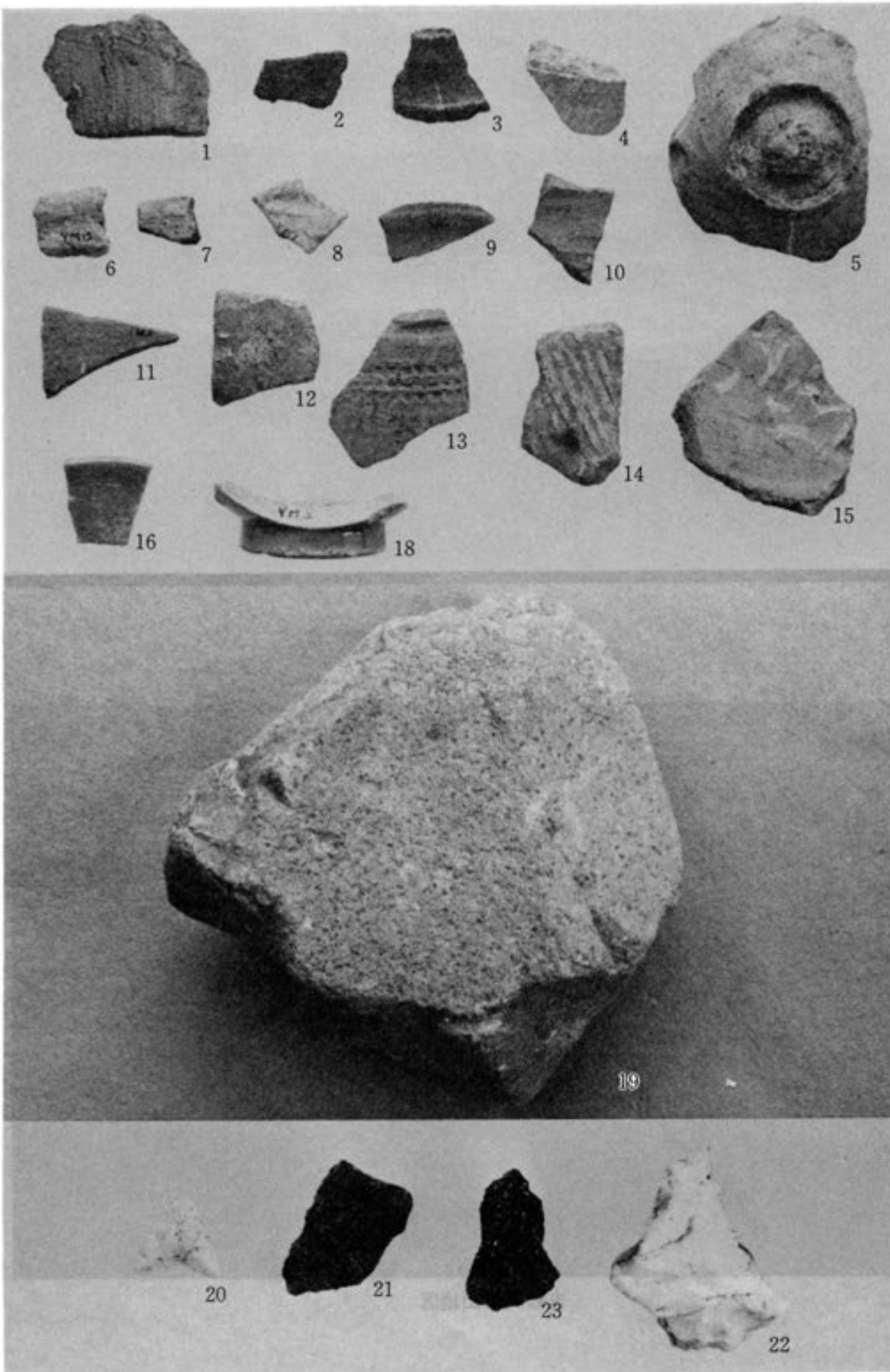


吉松盆地



吉松町永山地区

时影夏时穴内管河游吉



吉松町管内の採集遺物

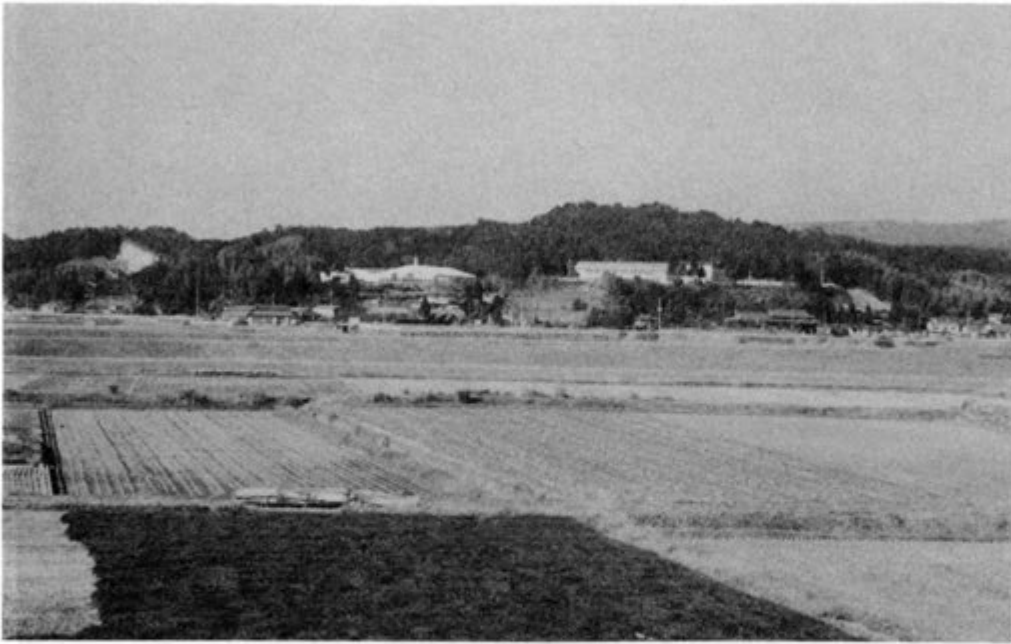




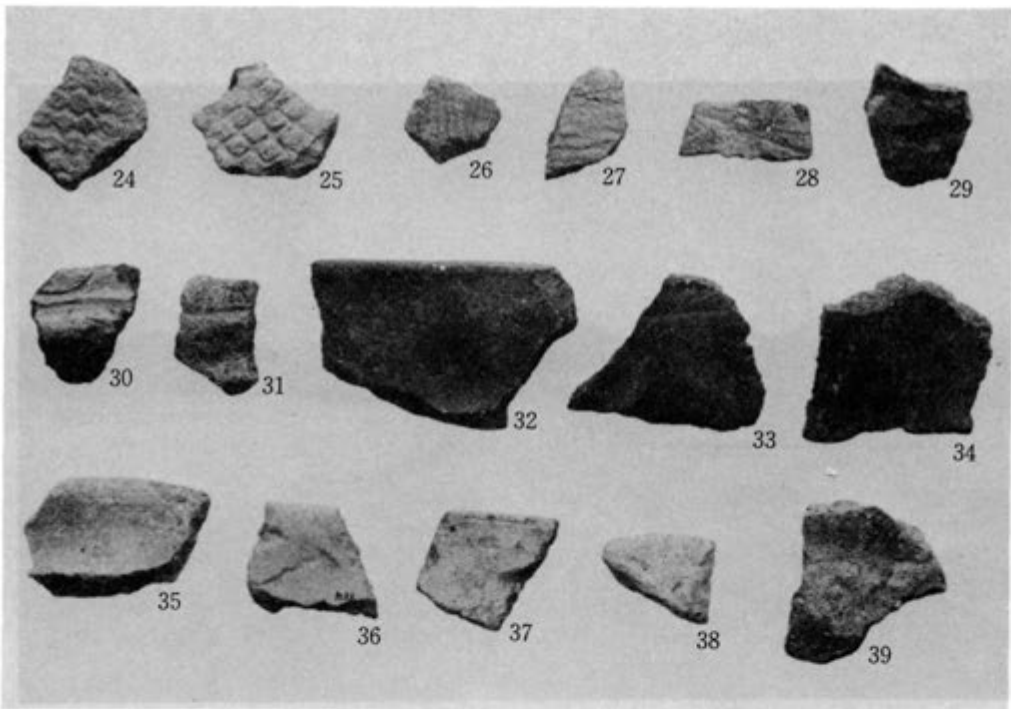
栗野町栗野盆地 (花ノ木)



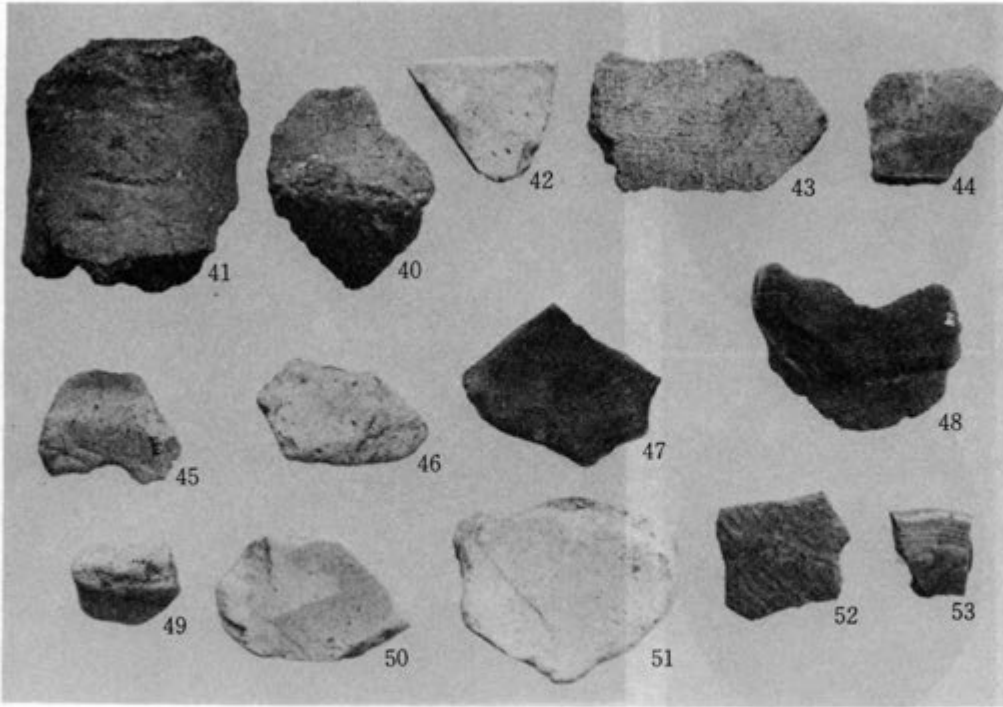
栗野町田尾原地区



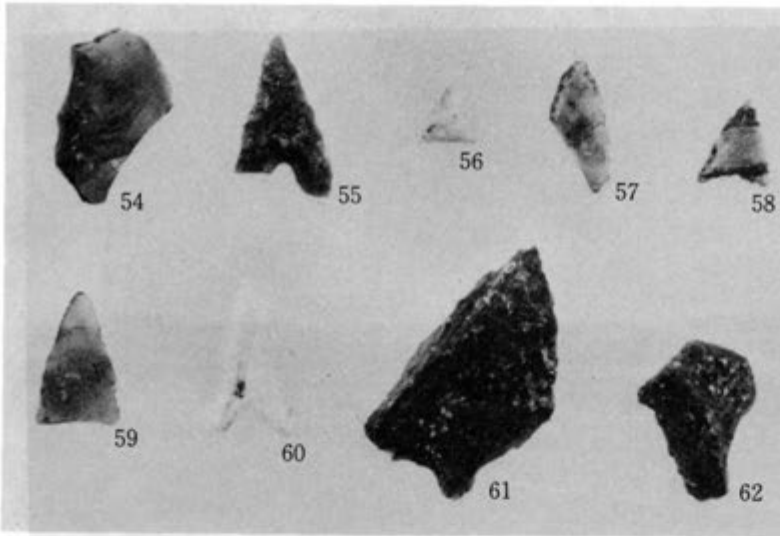
栗野町北方地区



栗野町管内の採集遺物土器(1)



栗野町管内の採集遺物土器(2)

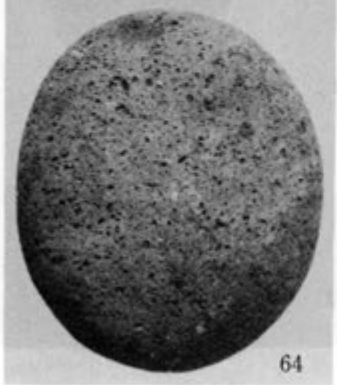


栗野町管内の採集遺物石器(1)

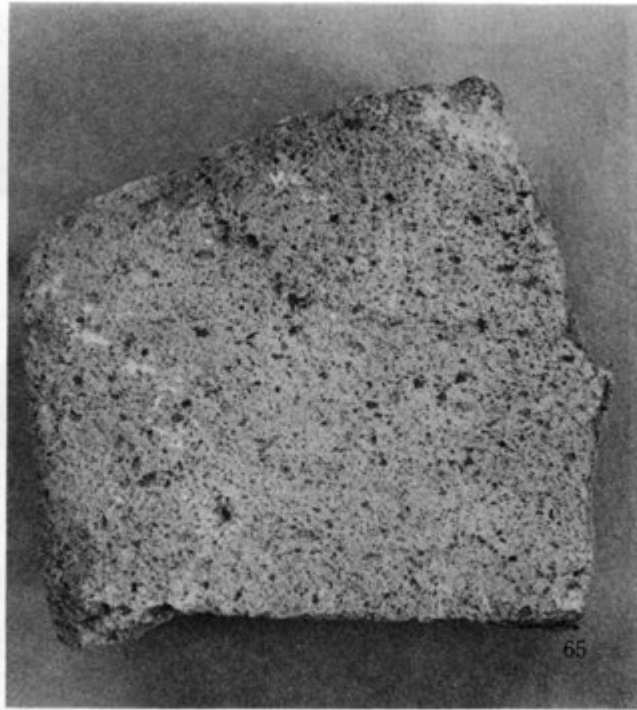




63



64

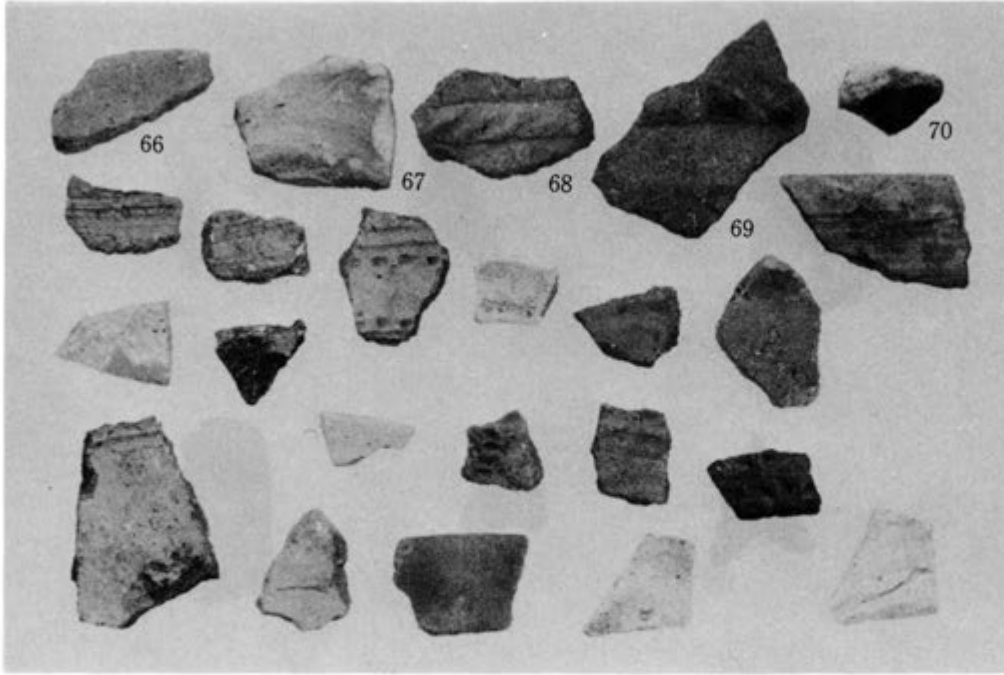


65

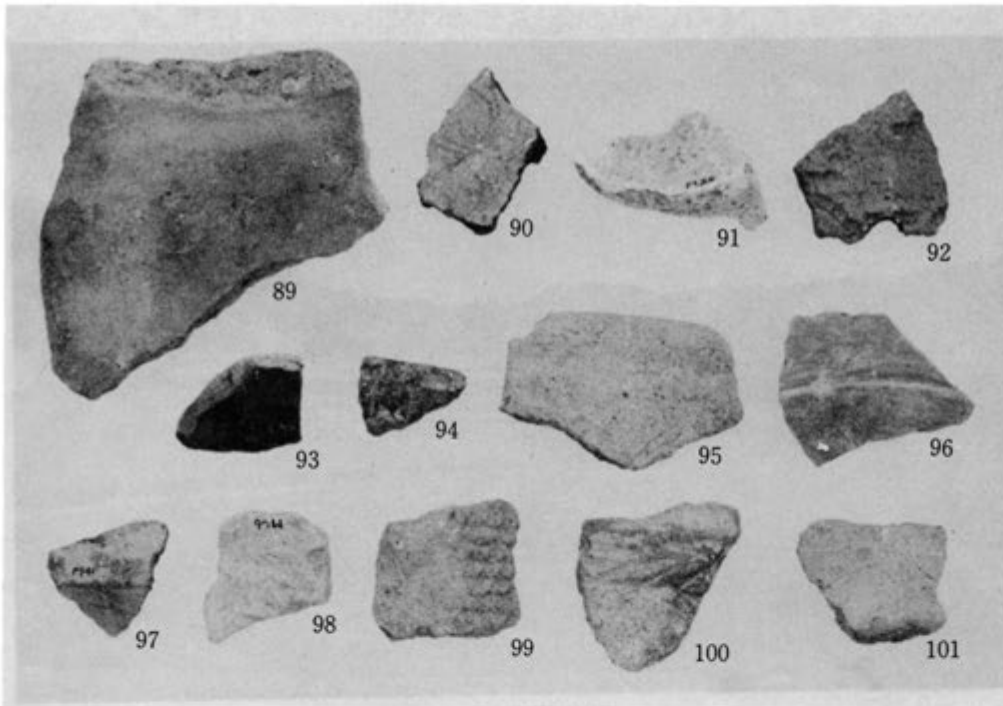
栗野町管内の採集遺物石器(2) (すり石、石皿)



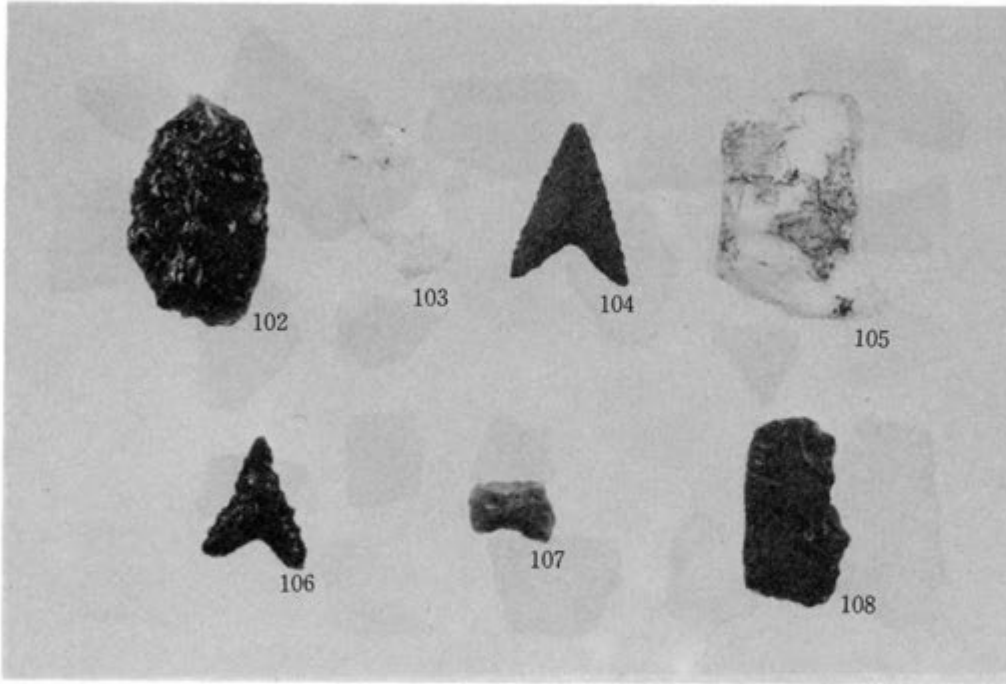
牧園町稼原地区



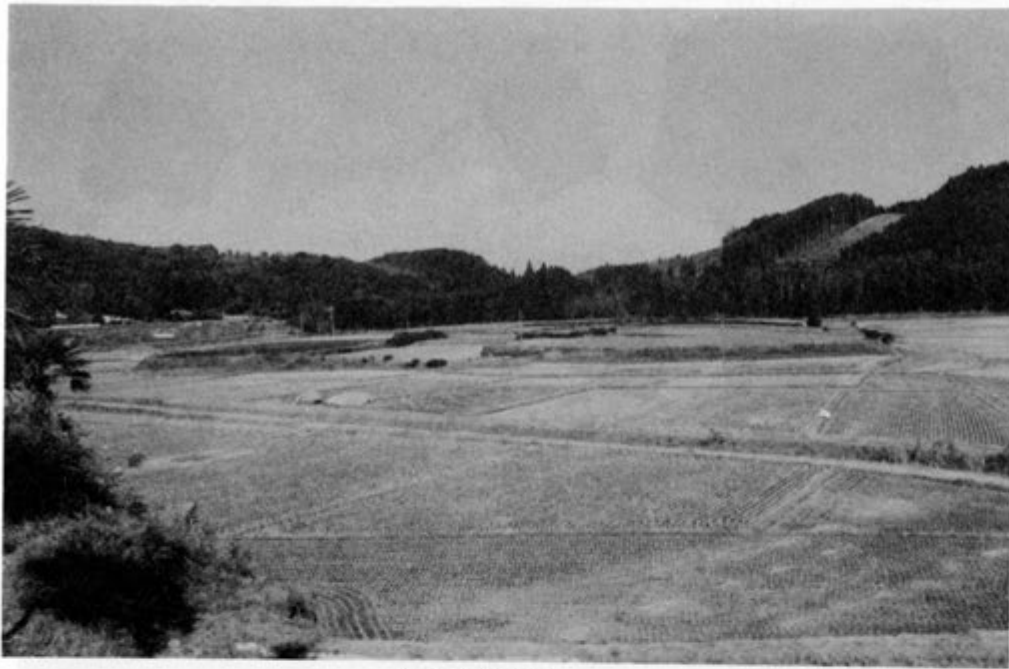
牧園町管内の採集遺物土器(1)



牧園町管内の採集遺物土器(2)

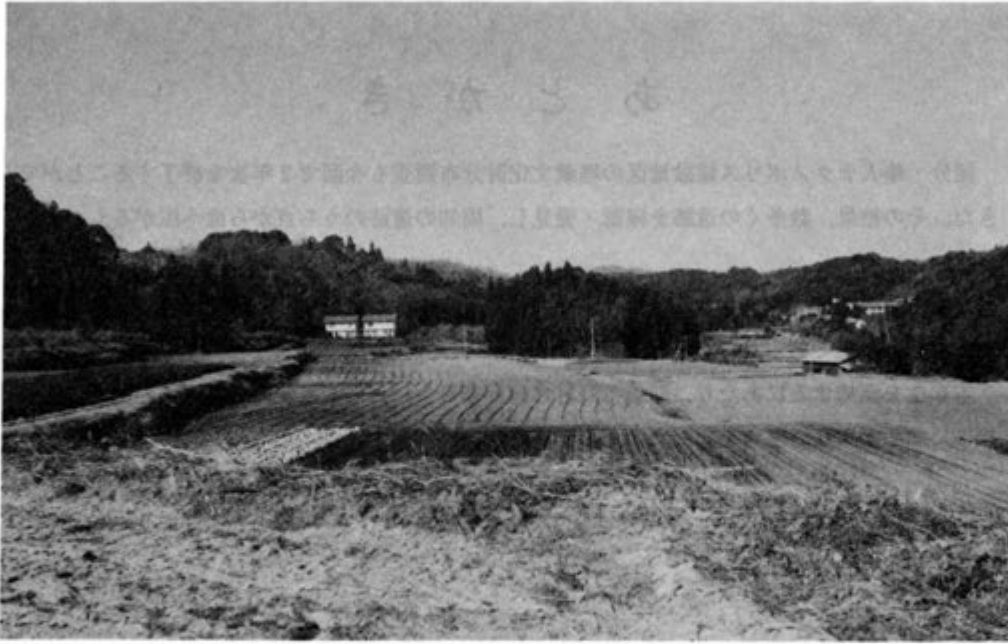


牧園町管内の採集遺物石器

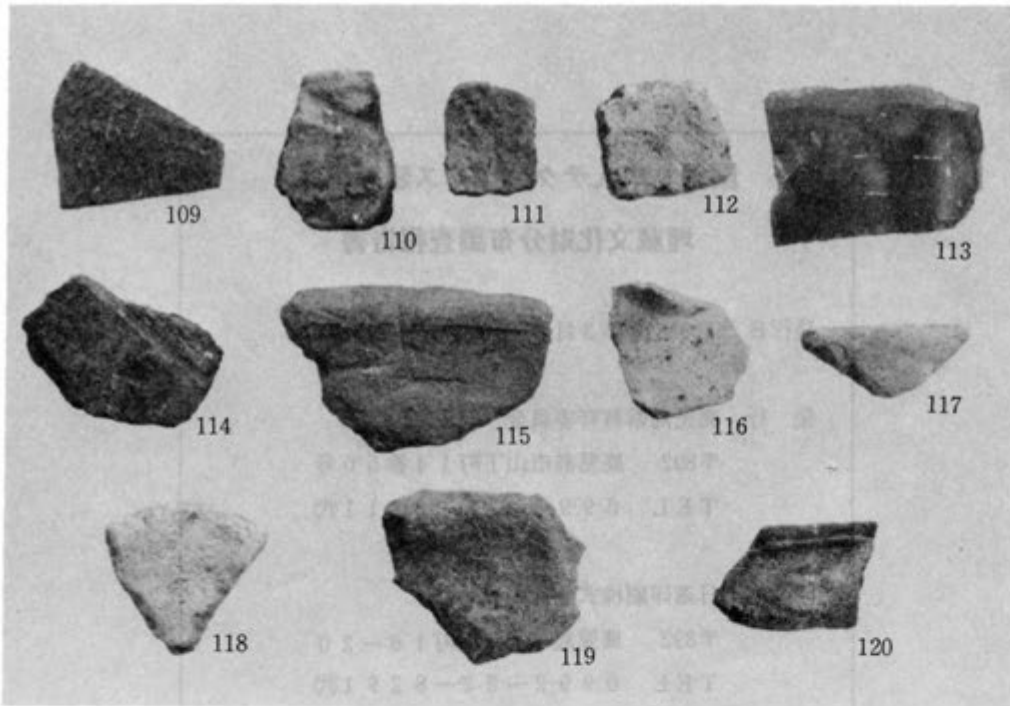


横川町栴地区





横川町黒葛原地区



横川町管内の採集遺物

## あ と が き

国分・隼人テクノポリス建設地区の埋蔵文化財分布調査も今回で2年次を終了することができた。その結果、数多くの遺跡を確認・発見し、周知の遺跡のうち点から面へ広がるものもあった。

今回の調査では、採集される遺物は調査の性格上小破片が主であり、図化できるものが少なかったのは残念であった。

本事業を実施するにあたり、関係市町村の教育委員会においては管内地図・字絵図等の資料提供に関し多大な御協力をいただいたことを感謝いたします。

### 国分・隼人テクノポリス建設地区

#### 埋蔵文化財分布調査報告書

発行日 1986年3月

発行 鹿児島県教育委員会

〒892 鹿児島市山下町14番50号

TEL 0992-26-8111(代)

印刷 日進印刷株式会社

〒892 鹿児島市加治屋町16-20

TEL 0992-22-8291(代)